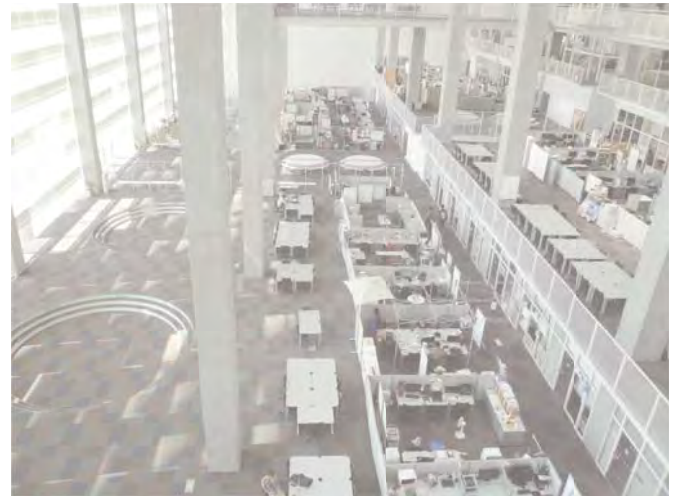


3 活動記録

(2) 第2回シンポジウム

フライヤー(案内チラシ)、当日配布資料、当日投影資料、書
込サマリー、議事録、当日スナップ



新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2 ～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～



【日 時】平成 27 年 9 月 27 日 (日) 18 : 30 ~ 21 : 00

【場 所】横浜市開港記念会館 講堂

【主 催】横浜新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会

【参加費】無料 (申込不要)

【タイムテーブル】

18:30-18:40 趣旨及び第 1 回シンポジウムの概要説明

18:40-19:40 ショートプレゼンテーション

- ・水辺荘 ・HamaBridge 濱橋会 ・あっちこっち ・市民セクターよこはま
- ・横浜まちづくり倶楽部 ・野毛地区街づくり会

19:40-20:00 休憩 + 意見の書き込み

20:00-20:50 ディスカッション【横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる】

大西晴之氏 (横浜商工会議所)、西田由紀子氏 (よこはま市民メセナ協会)、国吉直行氏 (横浜市立大学)

モデレーター : 片岡公一氏 (山手総合計画研究所)

20:50-21:00 クロージング



新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2

～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～

趣旨：

2020年のオープンに向けて、横浜市新市庁舎の施工事業者募集が始まりました。いよいよ本格的にスタートします。新しい市庁舎の敷地である北仲通地区は、横浜らしい水辺に面した場所であり、みなとみらい21地区と関内地区、野毛地区などの結節点でもあります。

この場所に建設される新市庁舎の特に足元の部分には、大岡川沿いの水辺空間との関係性を考えながら商業や市民利用施設などを配置する、とされています。さらに新しくまちの玄関となり、「祝祭性・おもてなし」の場ともなる「屋根付き広場」が設けられる予定です。これらの空間が生き活きと使われた時、新市庁舎は、横浜のチャレンジ性をお見せする場、国内外のお客様をお迎えするハレの舞台や、私たち横浜市民が活動し、交流する場となることが出来るでしょう。

第1回のシンポジウムではゲストから水辺空間、広場空間の先進事例についてプレゼンテーションを頂き、その後ゲストに横浜のパネリストを交えて、横浜における市庁舎のあるべき姿や、その活用についてディスカッションを行いました。

新しい市庁舎の低層部がそのような横浜を象徴する場、横浜にしかできない先進的な開かれた場となるためには、今この時点で関心を持つ市民や様々な活動団体、企業などが、アイデアを出し合いながら、「真に街に開かれた空間」の様々な活用やマネジメントについて、横浜市と一緒に議論を始めるべきである、と考えます。今回企画するシンポジウムを、新しい市庁舎の【活用】について、官民が手を携えて考える場づくりの第一歩としたいと考えています。ぜひご参加ください。

横浜市新市庁舎整備HP：<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kanri/newtyosya/>



水辺を開く
(まちが主体の相互方向の関係)

「横浜市新市庁舎デザイン
コンセプトブック」より

ショートプレゼンテーション：

横浜市新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会の構成メンバー等から、新市庁舎低層部の活用や、空間、マネジメントのあり方についてのイメージを持ちやすくするための、短いプレゼンテーションを行ないます。

- ・水辺荘 ・HamaBridge 濱橋会 ・あっちこっち ・市民セクターよこはま
- ・横濱まちづくり倶楽部 ・野毛地区街づくり会

ディスカッション：【横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる】

大西晴之氏（横浜商工会議所） 西田由紀子氏（よこはま市民メセナ協会）

国吉直行氏（横浜市立大学） モデレーター：片岡公一氏（山手総合計画研究所）

【主 催】 横浜新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会

（横浜商工会議所都市政策委員会、関内まちづくり振興会、馬車道商店街協同組合、野毛地区街づくり会、横濱まちづくり倶楽部、よこはま市民メセナ協会、水辺荘、HamaBridge 濱橋会、市民セクターよこはま、横浜市）
事務局 NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ info@yokohamalab.jp

新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2 ～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～

【日 時】 平成27年9月27日(日)18:30～21:00

【場 所】 横浜市開港記念会館 講堂

【主 催】 横浜新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会

(50音順: 関内まちづくり振興会、市民セクターよこはま、野毛地区街づくり会、
馬車道商店街協同組合、HamaBridge濱橋会、水辺荘、横浜市、よこはま市民メセナ協会、
横浜商工会議所都市政策委員会、横濱まちづくり倶楽部)

【タイムテーブル】

18:30～18:40 趣旨及び第1回シンポジウムの概要説明

18:40～19:40 ショートプレゼンテーション

- ・水辺荘・HamaBridge濱橋会・あっちこっち
- ・市民セクターよこはま
- ・横濱まちづくり倶楽部・野毛地区街づくり会

19:40～20:00 休憩+意見の書込み

20:00～20:50 パネルディスカッション

【横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる】

大西 晴之氏(横浜商工会議所)

西田 由紀子氏(よこはま市民メセナ協会)

国吉 直行氏(横浜市立大学)

モデレーター: 片岡 公一氏(山手総合研究所)

20:50～21:00 クロージング

【パネリストプロフィール】(敬称略)

大西 晴之(おおにし はるゆき)

横浜商工会議所常議員・観光サービス部会所属(議員歴約30年)／一般社団法人日本ビルディング協会連合会理事／一般財団法人日本ビルディング経営センター評議員／一般社団法人神奈川ビルディング協会会長／株式会社東伸ビルディング・代表取締役

西田 由紀子(にしだ ゆきこ)

よこはま市民メセナ協会会長／慶応義塾大学SFC研究所上席所員
文化芸術溢れ、人の輝くまちづくりを目指し、市民プロデューサー養成等、市民提案型メセナ活動に取り組む。横浜市道路高架下等利用計画検討会会長、地域まちづくり推進委員会ヨコハマまち普請事業部会委員他。

国吉 直行(くによし なおゆき)

横浜市立大学まちづくりコース特別契約教授／横浜市都市美対策審議会専門委員
早稲田大学理工学部建築学科卒業。1971年横浜市入庁。入庁後一貫して横浜市の都市デザイン行政を担当(都市デザイン室長、上席調査役エグゼクティブアーバンデザイナー等)。2006年以降は横浜市及び横浜市立大学で活動。2011年横浜市を退職。現在、横浜市立大学まちづくりコース特別契約教授(都市デザイン担当)。

【モデレータープロフィール】(敬称略)

片岡 公一(かたおか きみかず)

横浜を中心に、都市デザイン、都市計画、まちづくりから建築の設計までを手掛ける株式会社山手総合計画研究所にて、主に、都市デザイン、都市計画、まちづくりのプロジェクトに携わっている。現在は関内駅周辺地区のまちづくりも担当。

◆新市庁舎整備計画概要

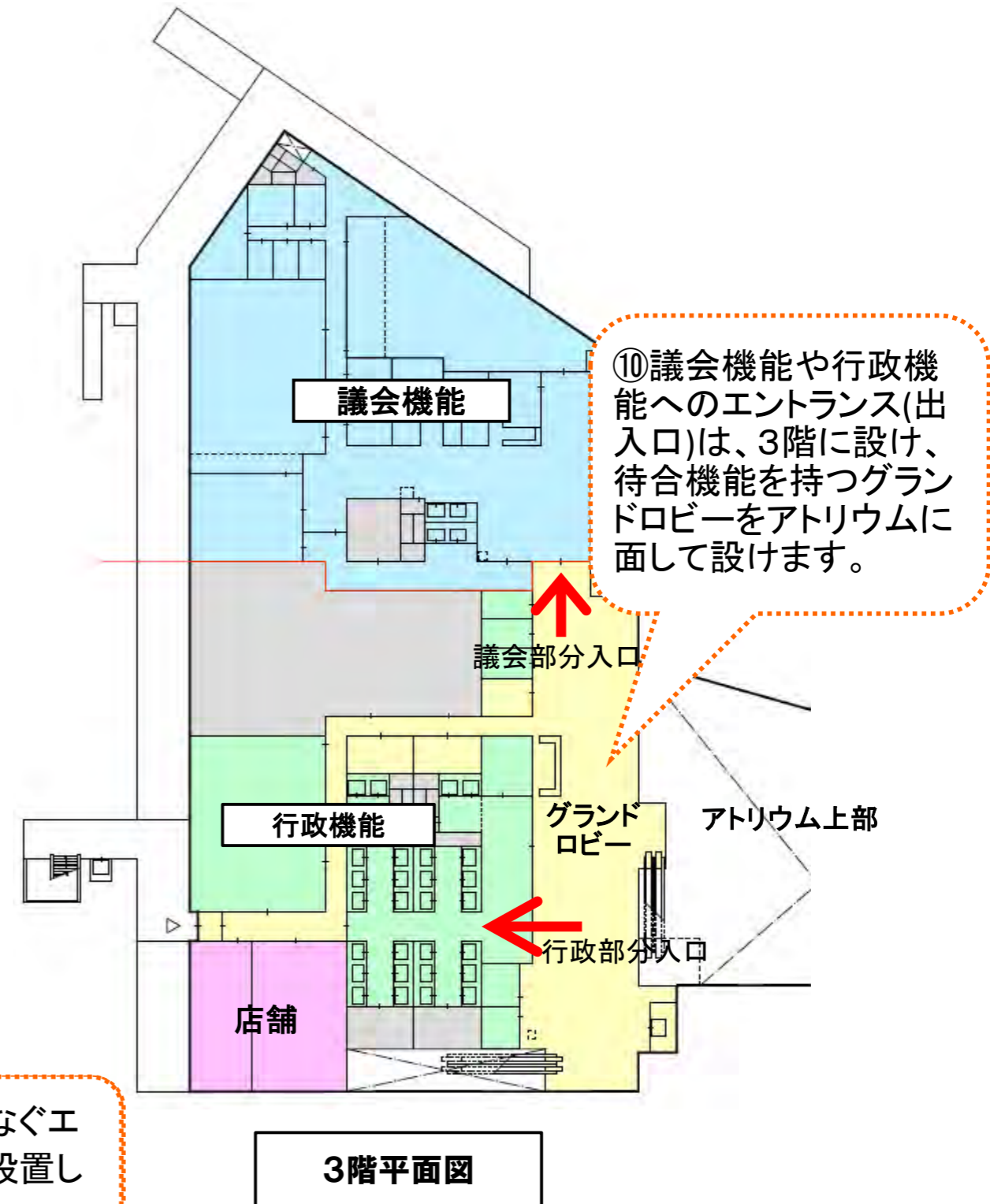
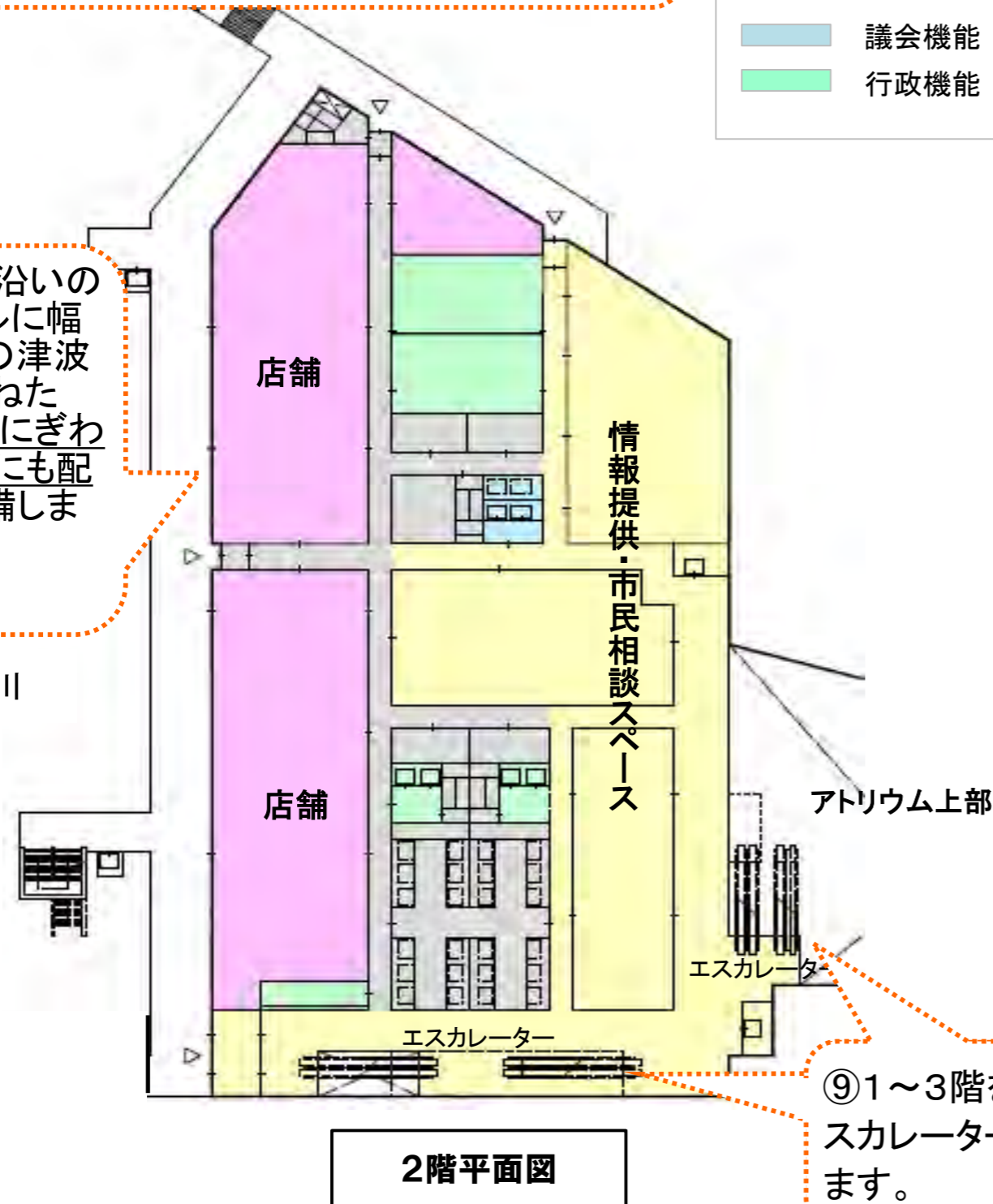
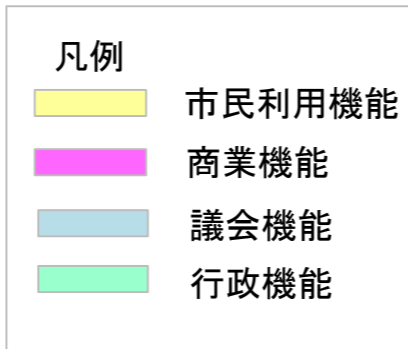
3 建物計画 【2～3階平面】

※図面は、発注要件を整理するために作成したイメージ図です。

⑦低層部は市民利用などを考慮して、余裕を持った空間構成とし、内装の木質化を効果的に行うなどグレード感を重視します。

⑧大岡川沿いの2階レベルに幅員約6mの津波避難を兼ねたデッキを、にぎわいの創出にも配慮して整備します。

⑨1～3階をつなぐエスカレーターを設置します。



◆新市庁舎整備計画概要

1 計画検討の視点

新市庁舎整備基本計画（平成26.3）

基本理念

整備基本方針

①的確な情報や行政サービスを提供し、豊かな市民力を活かす開かれた市庁舎

- ◆市民への情報提供・相談・案内機能等の充実
- ◆市民協働・交流空間の整備
- ◆開かれた議会の実現

②市民に永く愛され、国際都市横浜にふさわしい、ホスピタリティあふれる市庁舎

- ◆市民に親しまれ、来庁者が横浜らしさを感じる空間の整備
- ◆周辺環境や都市景観との調和
- ◆おもてなしの場の実現

③様々な危機に対処できる、危機管理の中心的役割を果たす市庁舎

- ◆大地震等が発生しても業務継続が可能な構造体や耐震性の確保
- ◆災害対策本部機能の充実
- ◆セキュリティの確保

④環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

- ◆先進的な環境設備・機能導入によるエネルギーコストの削減と環境負荷の低減
- ◆自然エネルギーや再生可能資源の有効活用と緑化推進

⑤財政負担の軽減や将来の変化への柔軟な対応を図り、長期間有効に使い続けられる市庁舎

- ◆長期間有効に使い続けられる市庁舎の実現
- ◆将来の変化への柔軟な対応と効果的・効率的な業務遂行が可能な執務室

建物に求める内容検討

【行政サービス・開かれた市庁舎】

- ・低層部に情報や行政サービスを確実に提供する場を創出
- ・多様化する課題に対して市民が積極的に参加し、交流を活性化する場
- ・伝統ある横浜市会の雰囲気を大切にしつつセキュリティにも配慮し傍聴スペースの拡充等による開かれた議会

【ホスピタリティ】

- ・市民が親しみをもち、来訪者が横浜らしさを感じる施設
- ・まちのシンボルとなり、市民が誇れ、周辺環境や都市景観に調和した外観デザイン
- ・賑わいを創出し、市民や来街者を迎え入れ自然に人が集う場

【危機管理機能】

- ・大地震に対する建物強度の確保、及び耐震性能の確保、免震、制振技術の採用、非構造部材や建築設備の耐震性能確保
- ・災害対策本部としての役割を果たすべく、災害時のスペース確保や設備の整備による業務継続性の確保
- ・行政情報、個人情報保護に配慮した施設

【低炭素建築】

- ・エネルギーコストの削減と環境負荷を低減する、先進的な設備技術の採用
- ・創エネルギーとして、太陽光発電等の採用
- ・自然風・採光の取込み等、多様な環境配慮・省エネルギー技術の採用
- ・緑化の推進、環境配慮材の利用等地球環境に対する配慮

【長寿命建築・管理修繕コスト】

- ・建物の長寿命化に配慮した、設計、建材、構法の採用
- ・将来の施設利用の変化に対応できる柔軟性の確保
- ・しゅん工後のCO2排出量に配慮した運営・設備更新計画の検討
- ・業務効率の向上が図れる快適で機能的な執務環境

⇒ 建物として必要な項目を精査・検討

⇒ 特に施設計画上、重要な項目を抽出

抽出した建物の計画項目

地上部の建物は、海側に張り出した低・中層部を持つ高層の建物と、開放的な屋根付き広場（アトリウム）で構成します。

二元代表制の象徴として議会機能の独立性を確保するため、シンボルである「議場」を低・中層部海側の最上部に配置します。

みなとみらい線馬車道駅に直結するアトリウムは、大きな吹き抜け空間として市民や来街者の「祝祭性・おもてなし」の場とします。

低層部（1階～3階）には、市民利用機能や店舗を、アトリウムや水辺の憩い空間（大岡川沿い）との関係性を考えながら配置します。

議会機能や行政機能へのエントランス（出入口）は3階に設け、待合機能を持つグランドロビーをアトリウムに面して設けます。

主要な機械室は、津波による浸水の可能性を考慮して、4階以上に配置します。

議会機能は原則として3階及び5～8階に配置し、利用しやすい動線計画、ゆとりをもったスペースの確保、傍聴席の拡充・新設などに配慮します。

行政機能は8階以上に配置し、将来の組織改編などに柔軟に対応できるよう計画します。

大地震発生時においても事業継続が可能な高い耐震性能を確保します。

環境関係技術開発の動向等を見極め、環境未来都市にふさわしい庁舎とします。

建物配置の考え方

①地上部の建物は、海側に張り出した低・中層部をもつ高層の建物と、屋根付き広場(アトリウム)で構成します。

②二元代表制の象徴として議会機能の独立性を確保するため、議会機能のシンボルである「議場」を高層部から独立した低・中層部海側の最上部に配置します。

③アトリウムは、みなとみらい線馬車道駅に直結し、隣接する横浜アイランドタワーと高層部をつなぐ位置に配置します。

④議会機能は、原則として3階及び5～8階に配置します。

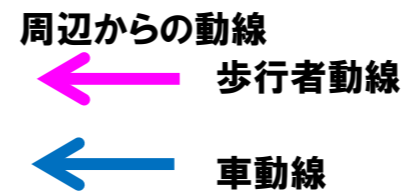
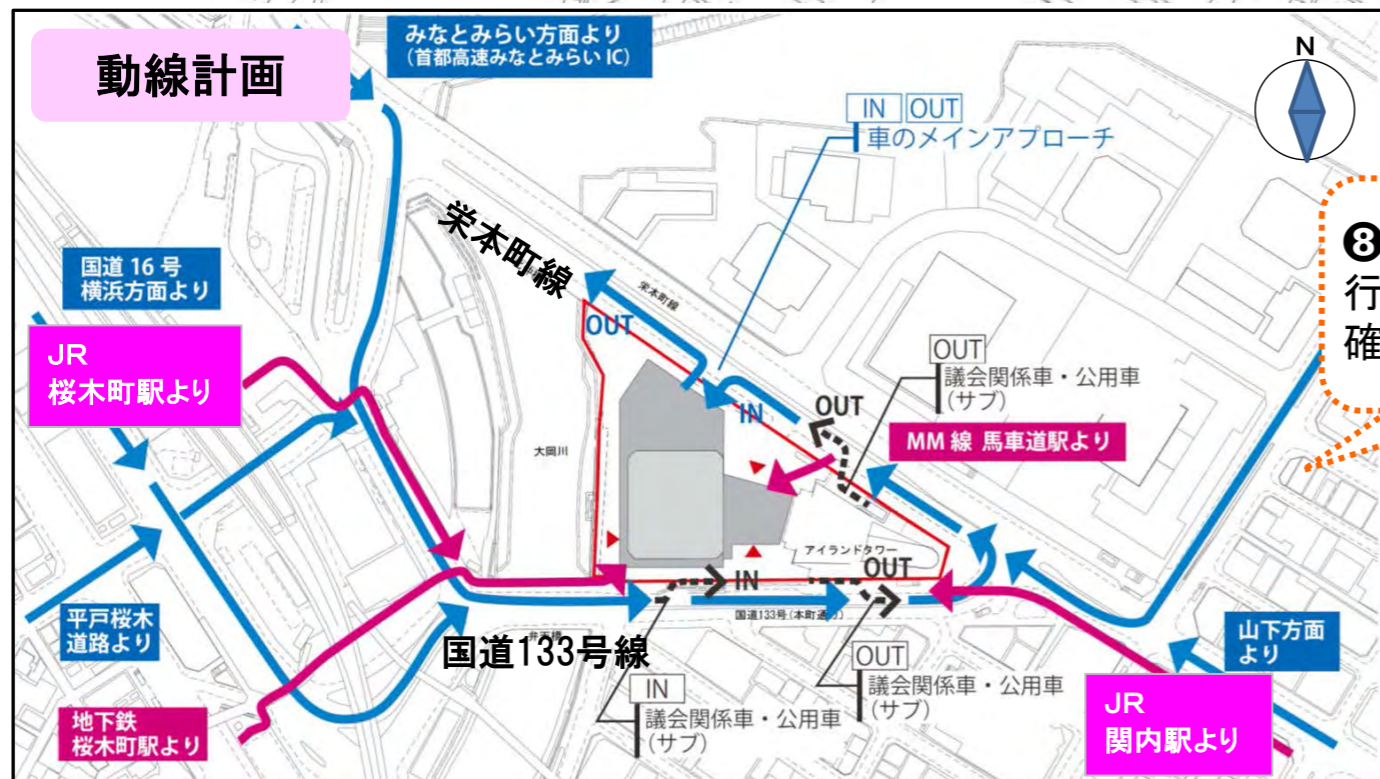
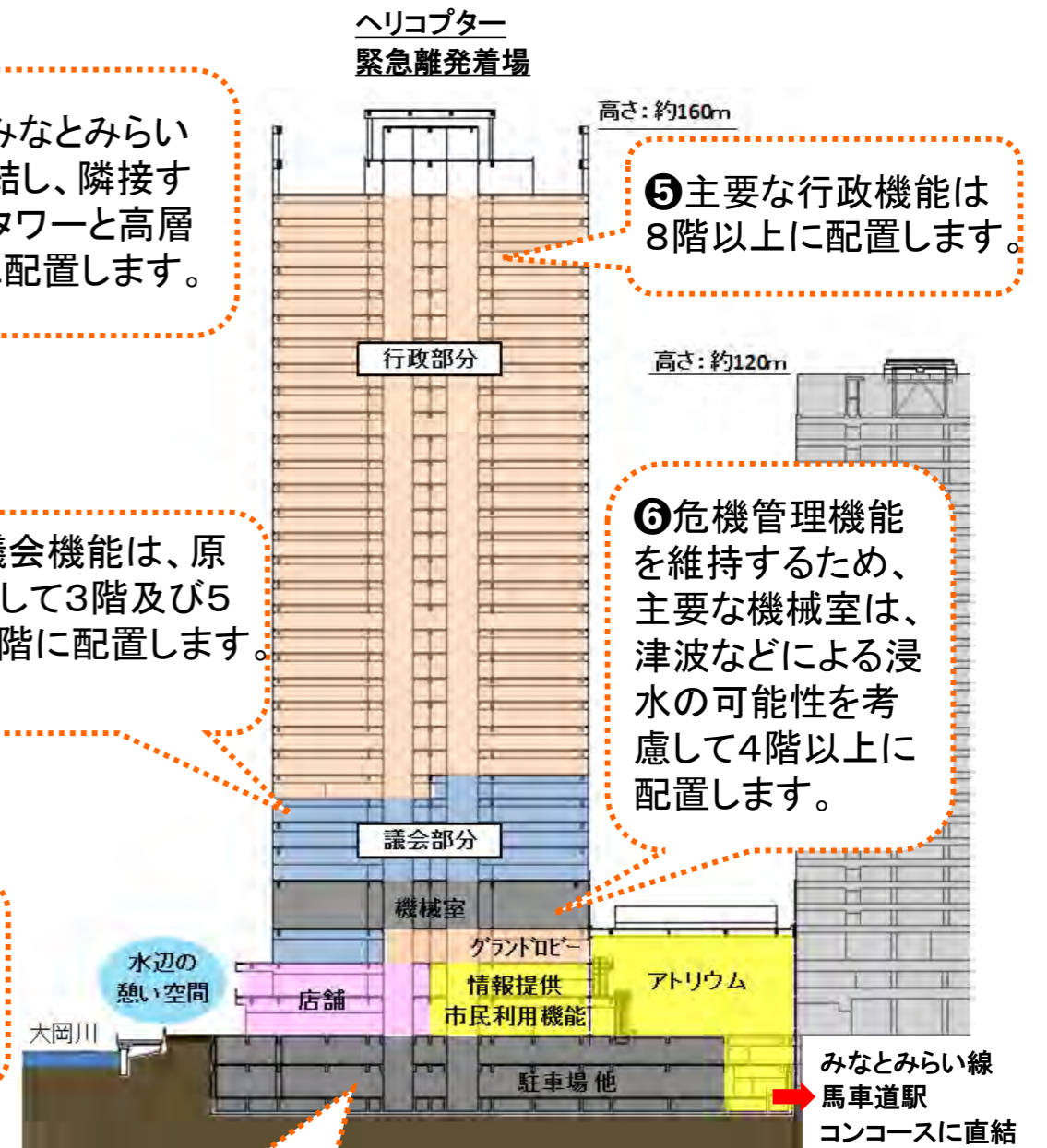
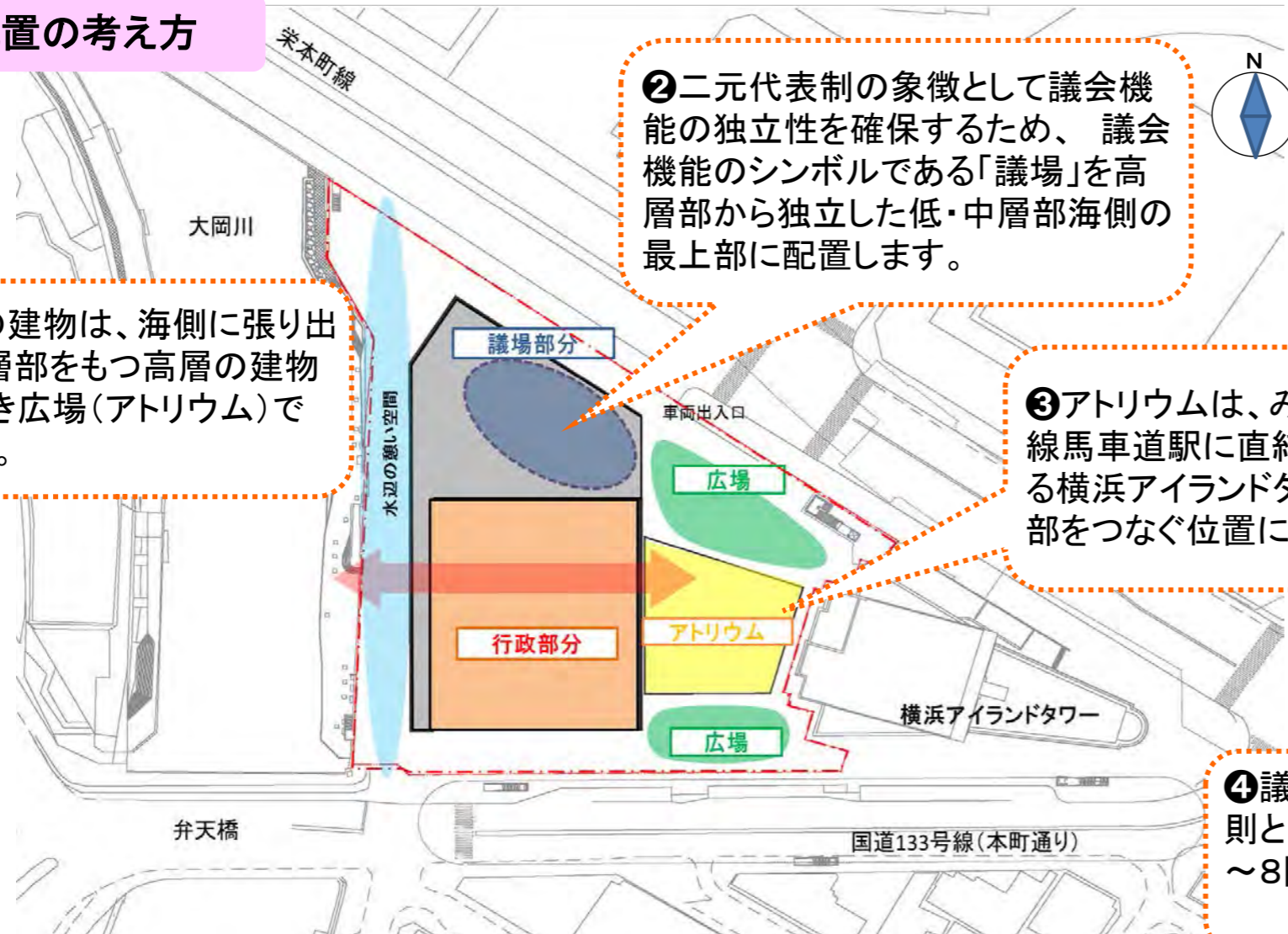
⑤主要な行政機能は8階以上に配置します。

⑥危機管理機能を維持するため、主要な機械室は、津波などによる浸水の可能性を考慮して4階以上に配置します。

⑧敷地内における歩行者及び車動線を明確に分離します。

⑦地下1、2階には、約400台分の駐車場や駐輪場を設けます。

※図面は、発注要件を整理するために作成したイメージ図です。



断面イメージ図

②大岡川沿いには、水際線プロムナードの一環として、幅6mを基本とした水辺の憩い空間を整備します。



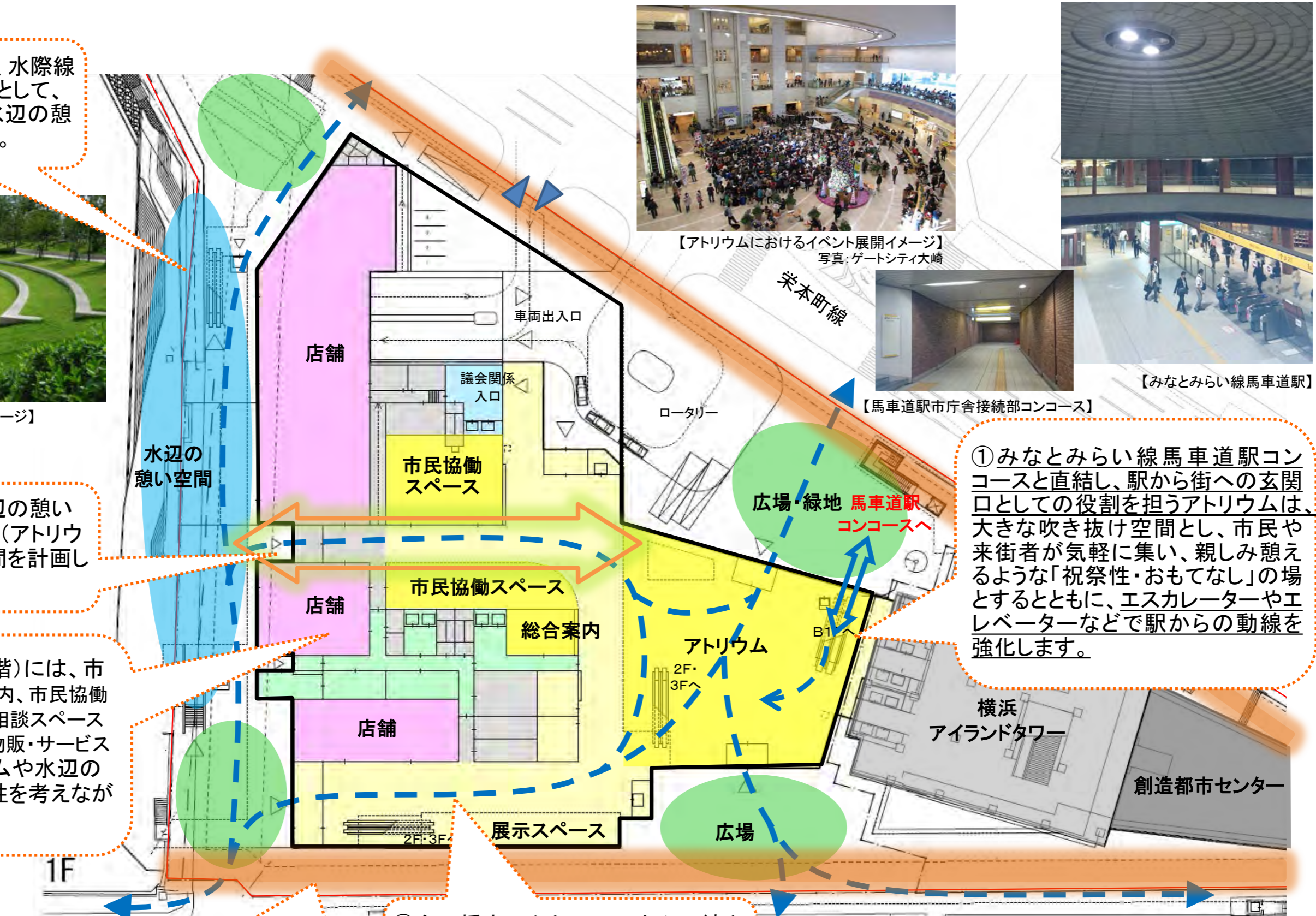
【水際線プロムナードイメージ】
写真:長崎水辺の森公園

③大岡川沿いの水辺の憩い空間と屋根付き広場(アトリウム)をつなぐ回遊空間を計画します。

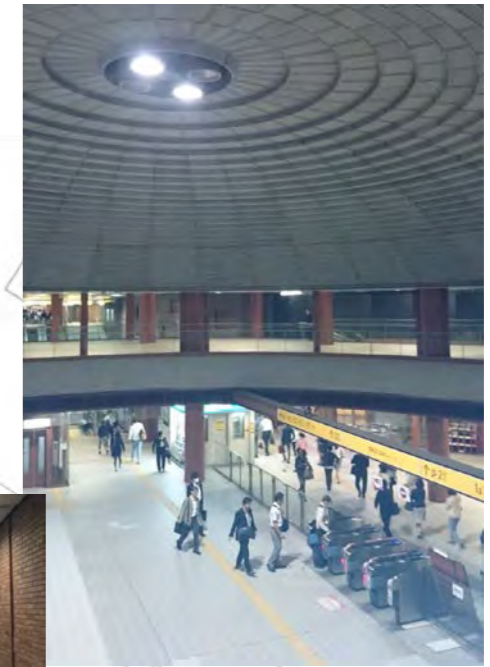
④低層部(1階~3階)には、市民利用機能(総合案内、市民協働スペース、情報提供・相談スペースなど)や店舗(飲食・物販・サービス施設等)を、アトリウムや水辺の憩い空間との関係性を考えながら配置します。

⑤道路沿いには、壁面後退により、ゆとりある歩行者空間や広場を創出します。

⑥弁天橋方面から、アトリウムへ続く屋内通路を設置し、展示スペースを設けるなど開放的な空間を整備します。



【アトリウムにおけるイベント展開イメージ】
写真:ゲートシティ大崎



【みなとみらい線馬車道駅】



【馬車道駅市庁舎接続部コンコース】

①みなとみらい線馬車道駅コンコースと直結し、駅から街への玄関口としての役割を担うアトリウムは、大きな吹き抜け空間とし、市民や来街者が気軽に集い、親しみ憩えるような「祝祭性・おもてなし」の場とするとともに、エスカレーターやエレベーターなどで駅からの動線を強化します。

本町線(国道133号線)

1階平面図

※図面は、発注要件を整理するために作成したイメージ図です。

「横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック」をつくりました。

横浜市は、基本設計を含んだ「デザインビルド方式」という新しい手法を取る新市庁舎プロジェクトにあたり、市民の方々と新市庁舎の方向性を共有するために、「横浜市新市庁舎デザインコンセプトブック」を作成・公開しました。

また、事業者募集を開始する前の時期であるこのタイミングで公開したのは、応募を予定する事業者に、横浜市の考えを事前に伝え、それに沿った方向で検討してもらうことを意図しています。

横浜市のこれからのまちづくりにも大きく関係する新市庁舎について、皆様にもぜひ知っておいて頂きたいと思いますので、ぜひ一度、本編をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kanri/newtyosya/dezainkonseptobukku.pdf>

新市庁舎のミッション：

～開港の街から持続可能で豊かな国際都市へ～

人、自然、街がつながる開かれた市庁舎を具現化し、
市民と共に OPEN YOKOHAMA を創出する。

⇒ 権威的な高層ではなく、低層部での市民活動や賑わいこそがシンボルとなる開かれた市庁舎。

目次

1. デザインコンセプトブックについて
2. ミッション
3. 地区特性と地区に建つ建築のあり方
 - 3-1. 地区特性
 - 3-2. 地区に建つ建築のあり方
4. 新市庁舎のあり方
 - 4-1. 新市庁舎の構成
 - 4-2. デザインのポイント
 - 4-3. 環境
 - 4-4. 緑化
5. その他
6. あとがき



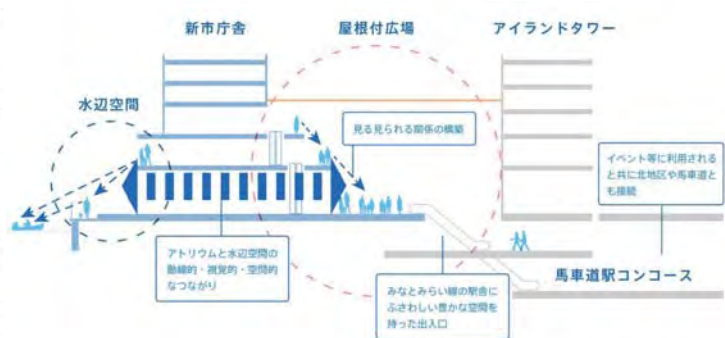
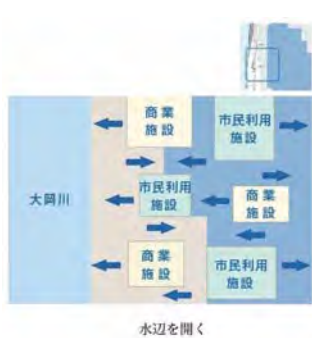
地域を結ぶ**結節点**

+

横浜らしい**水辺**

+

尊重すべき**歴史**



+ 新市庁舎における賑わいとは

「豊かな市民生活」や「活動」があること

+ そのための建築のあり方

⇒ 未来を志向した**横浜らしさ**を新しい建築に表す

詳しくは本編をご覧ください！

2015年9月27日

NPO 法人 あっちこっち プレゼンテーション用資料



～新市庁舎低層部活用に関する「3つの提案」～

1. ジェネレーション、ハンディキャップを超えたコンサート空間としてのアトリウム
2. 創造豊かなワークショップが可能になる多彩なスペース
3. 被災地と横浜の架け橋、国際交流の場の拠点として

これらのベースとなる、あっちこっちの活動

● 地域に寄り添った本格クラシック音楽による カフェ・コンサート♪

心の音楽をつなぐプログラムを提供！
介護施設など外出が難しい
方々へ音楽とともに
楽しい一時を提供します。



● 遊びながら芸術体験できる親子のためのワークショップ♪

子どもと保護者を中心としながら
若手芸術家・運営ボランティアを
つなぎ、地域の活性化と同時に
子どもたちに多様な人と
交流しながら芸術を楽しんで
もらいます。



● 被災地へ音楽を届ける活動♪

被災地から依頼を受けた
仮設住宅集会所や公民館で
手作りお菓子と淹れたて珈琲で
コミュニティをつなぐための
カフェ・コンサートを
毎月開催します。



● 芸術を通じた国際交流事業♪

日本と海外のアーティストによる
コラボレーション。
子どものためのワークショップ、
被災地でのプロジェクト、
国際教育音楽祭などを
共同制作しています。



《お問い合わせ》

NPO 法人あっちこっち <http://acchicocchi.com/>

代表理事：厚地美香子

オフィス：〒231-0852 神奈川県横浜市中区西竹之丸 61-5

TEL: 090-1261-1308 FAX: 045-663-9096

E-mail: info@acchicocchi.com

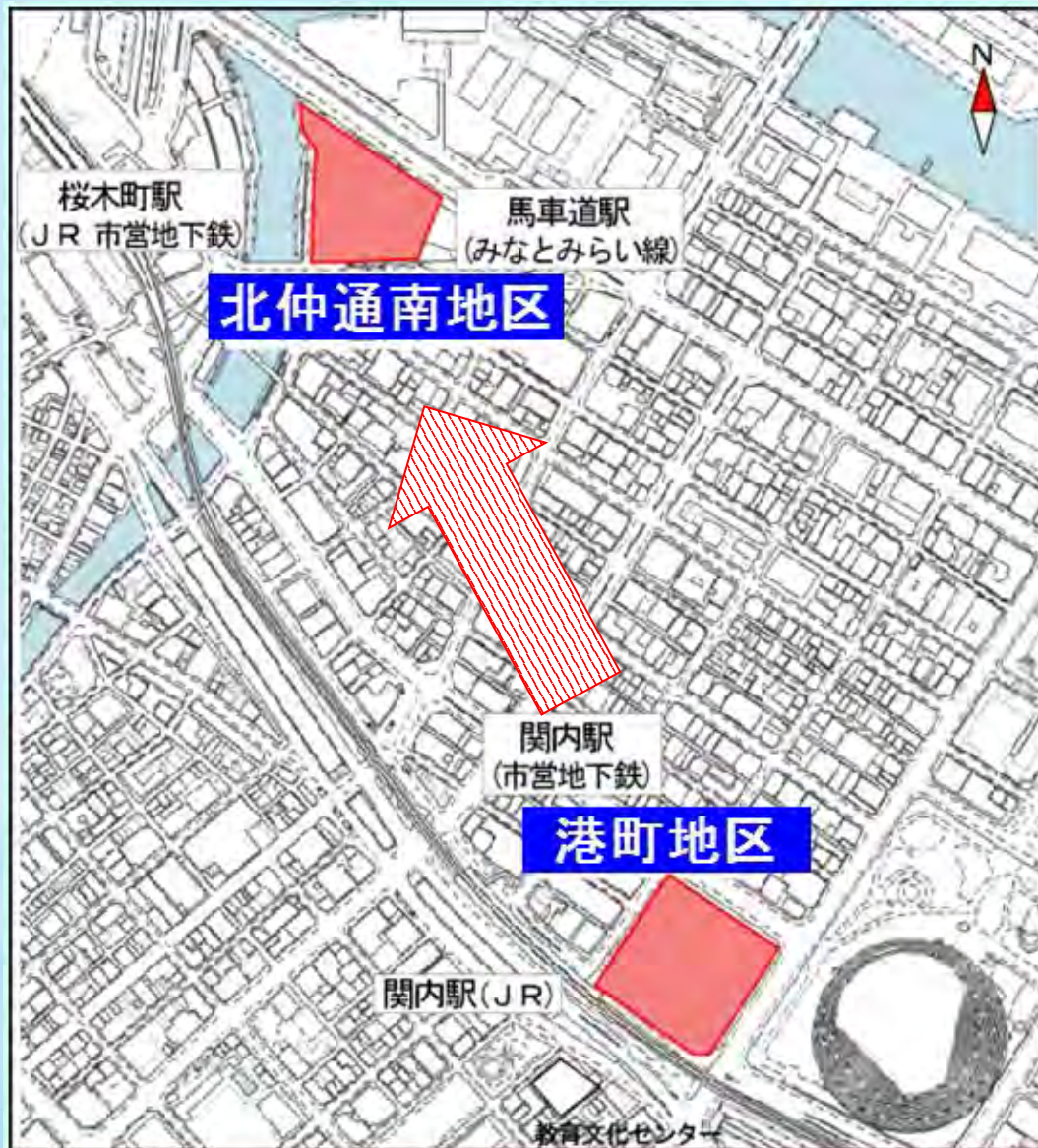
音楽・アートで笑顔を!



新市庁舎の【活用】を考える シンポジウム2



平成27年9月27日



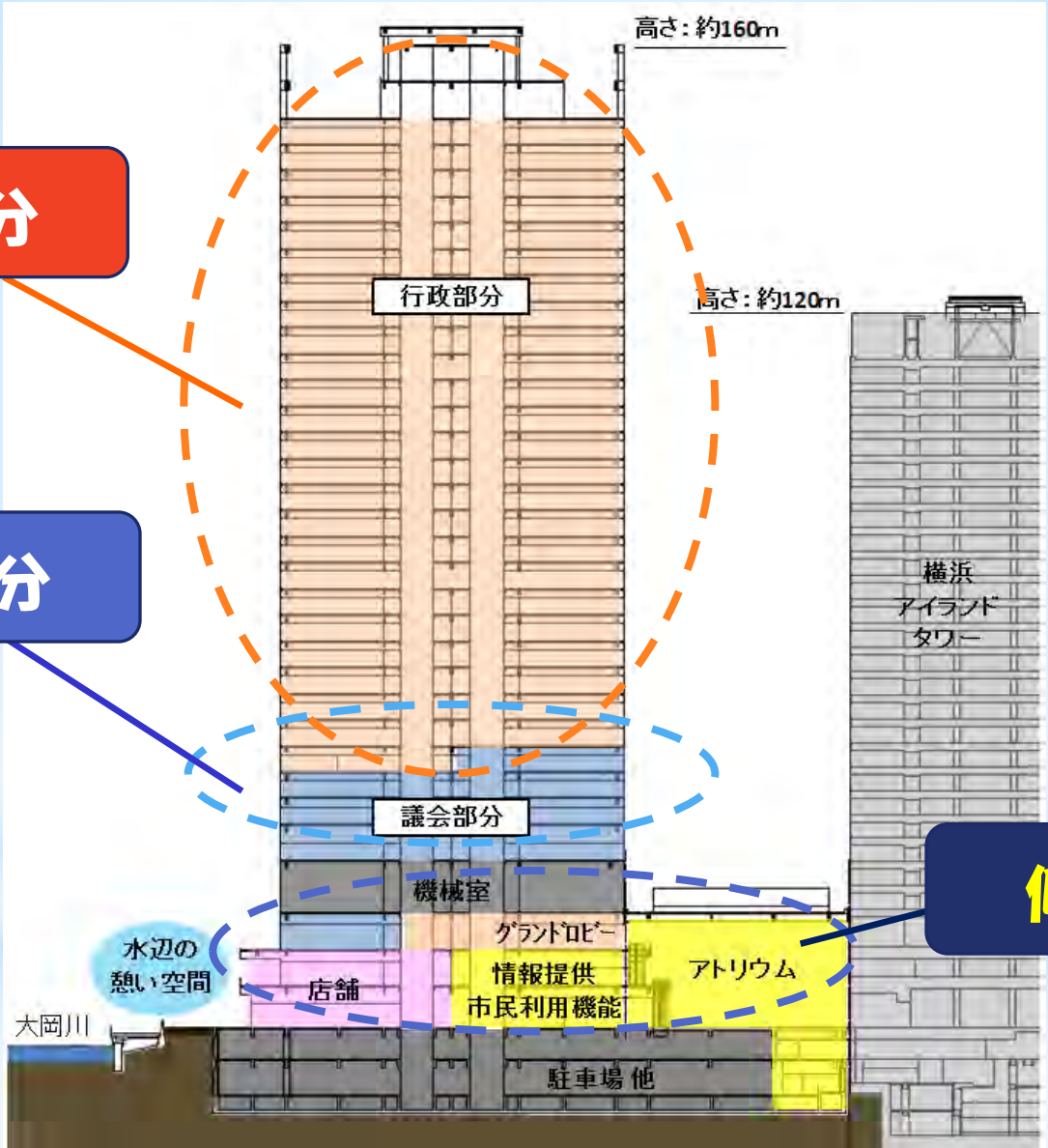
【新市庁舎の概要】

- 構造：鉄骨造、一部R C造
- 階数：概ね地上32階 地下2階
- 高さ：約160m
- 延床面積：約140,500m²



行政部分

議会部分



低層部

新市庁舎整備計画概要 (断面図) ※イメージ

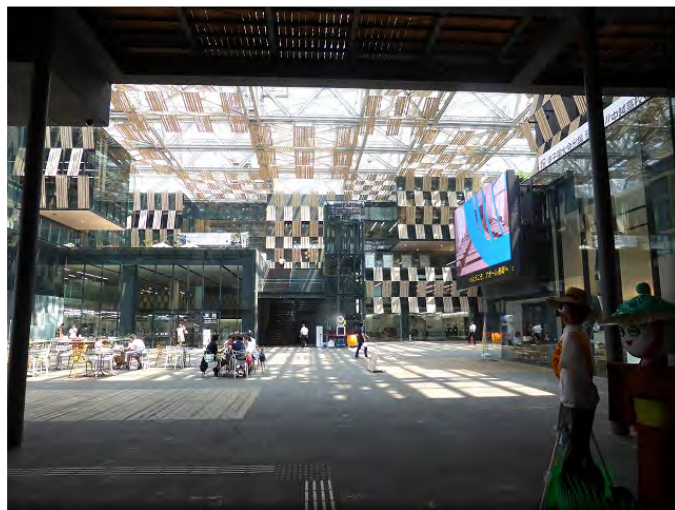
新市庁舎整備計画概要（1階平面図）※イメージ



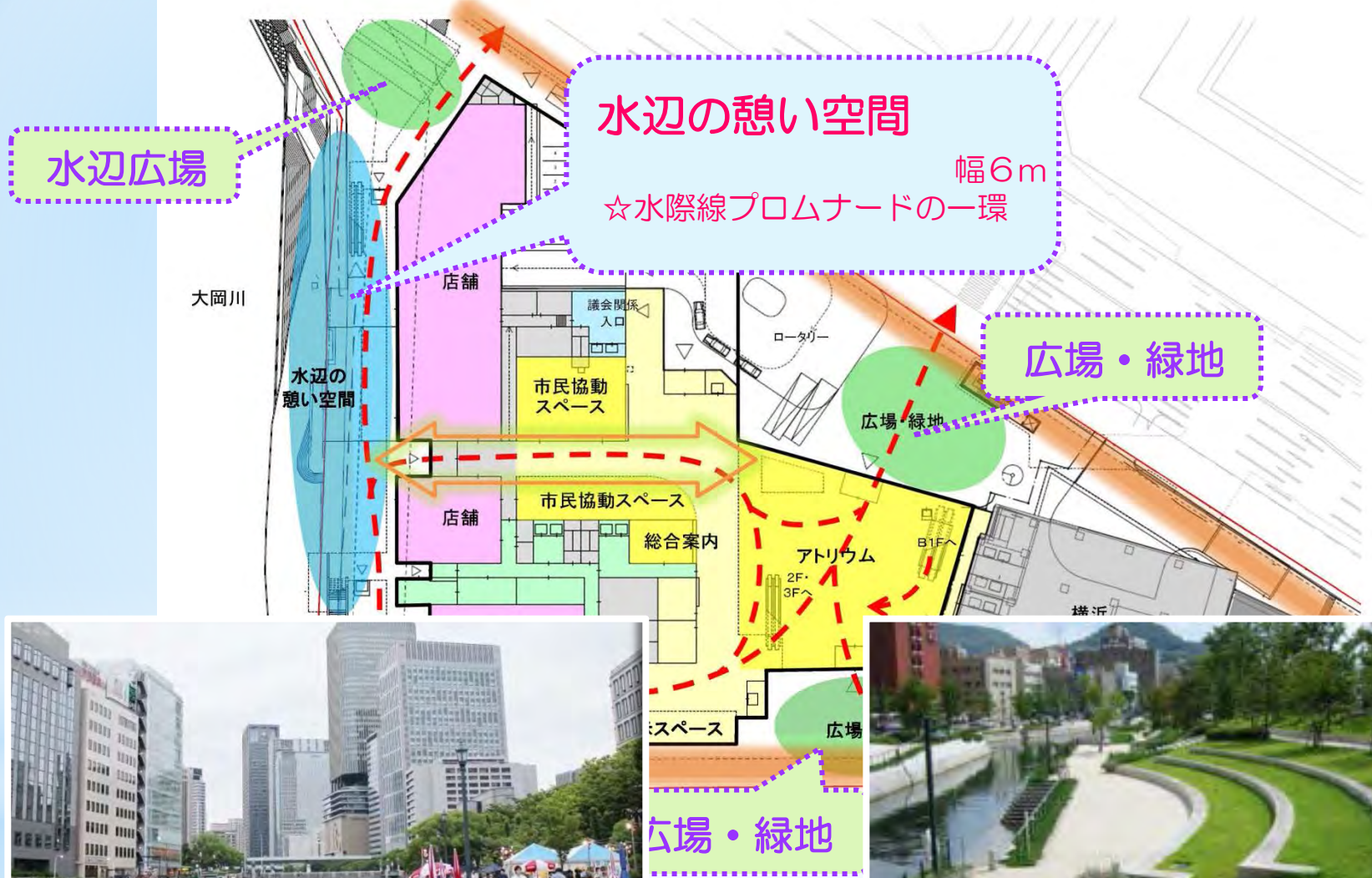
大きな吹き抜け空間
屋根付き広場(アトリウム)

面積1,200㎡

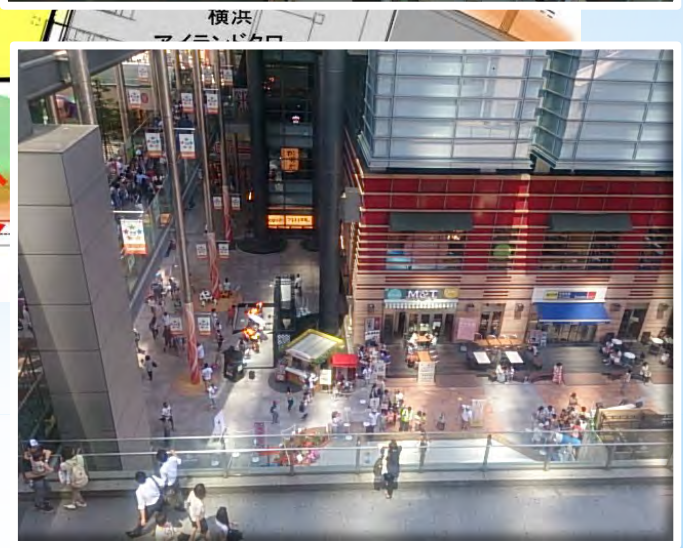
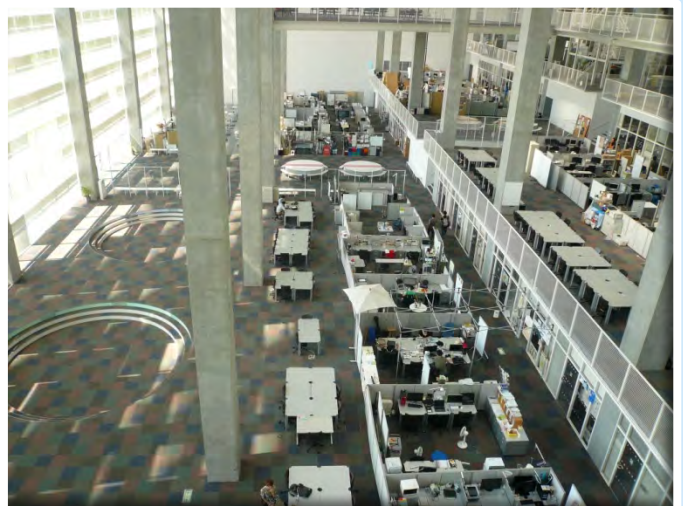
- ☆馬車道駅と直結
- ☆演奏会ができるステージを配置
- ☆集い・親しみ・憩える
「祝祭性・おもてなし」の場



新市庁舎整備計画概要（1階平面図）※イメージ



新市庁舎整備計画概要（1階平面図）※イメージ



水辺の憩い空間

幅6m
☆水際線プロムナードの一環

市民や行政の
協働・交流や
情報発信の場

大きな吹き抜け空間
屋根付き広場(アトリウム)

面積1,200m²

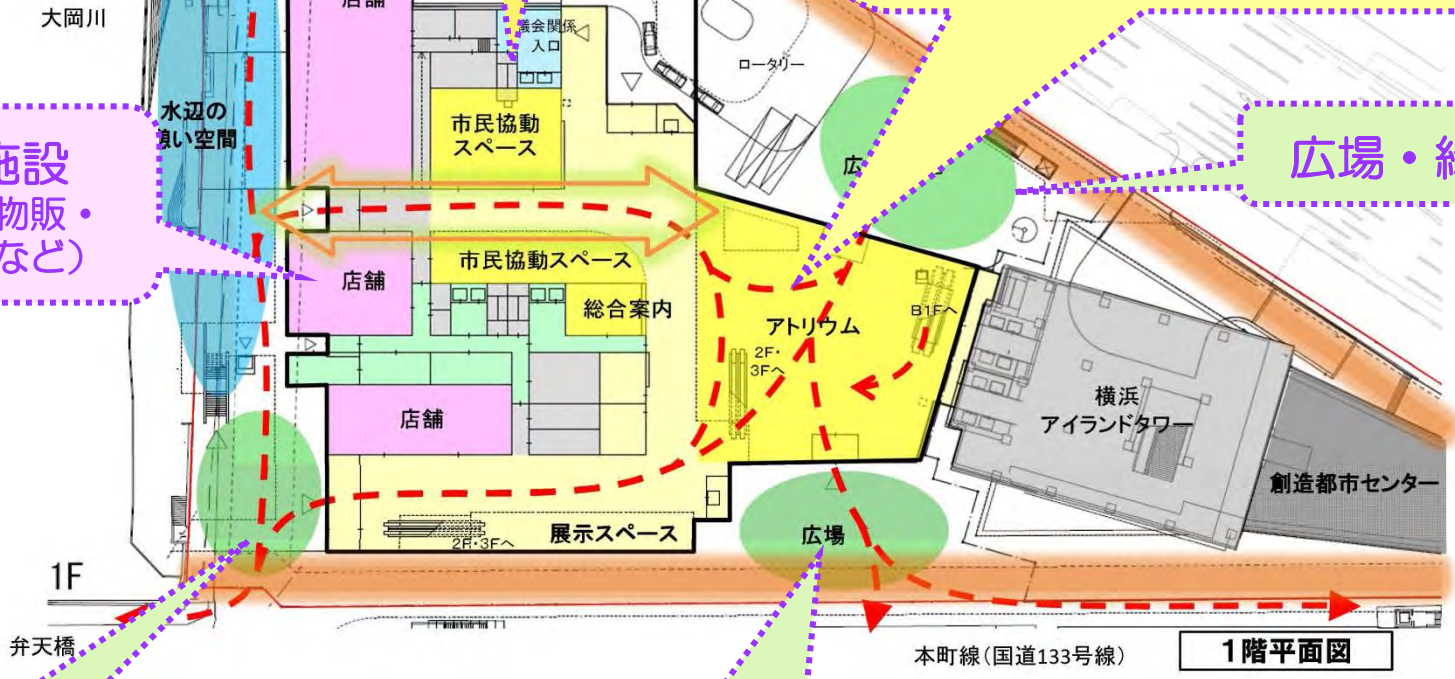
☆馬車道駅と直結
☆集い・親しみ・憩える
「祝祭性・おもてなし」の場

商業施設
(飲食・物販・
サービスなど)

広場・緑地

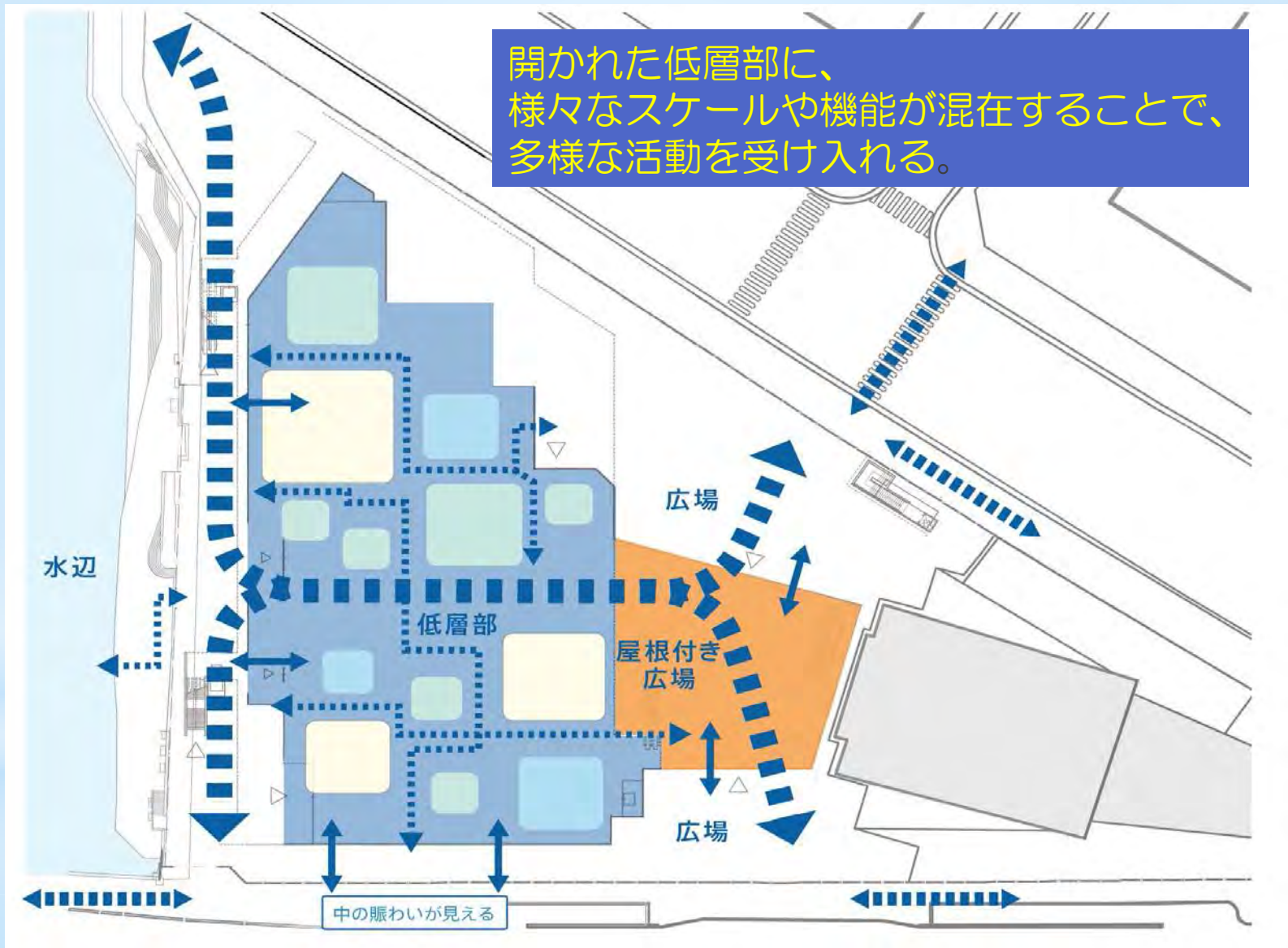
橋詰広場

広場・緑地



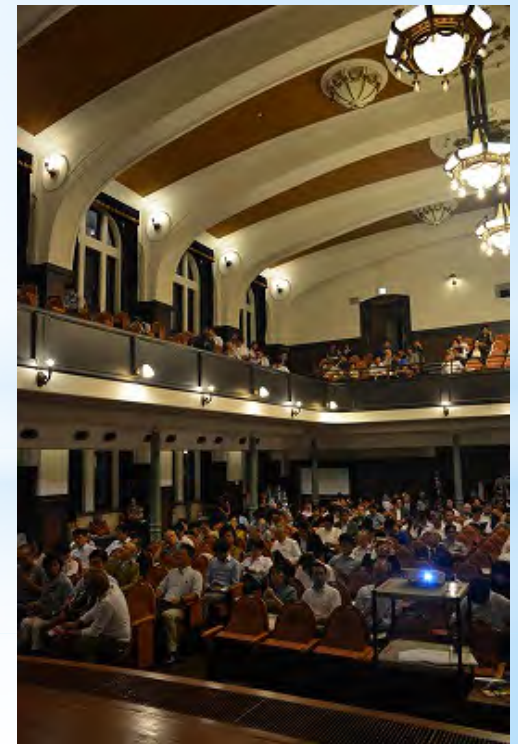
1階平面図

開かれた低層部に、
様々なスケールや機能が混在することで、
多様な活動を受け入れる。



第1回シンポジウム（8月28日）







新市庁舎予定地

関内地区

横浜日ノ出棧橋

水辺荘

大岡川桜棧橋

関外地区

蒔田公園親水広場

NPO法人HamaBridge濱橋会 とは...

横浜をみんなで良い街にしよう！

という共通した想いのもとに、
関内関外地区の商店主や中小企業など、地元で生活を根ざした人の集まり



2本の運河は、都心部が繋がれる共通したアイコン

- 横浜運河パレード -

かつて港湾都市横浜の要であった運河を地域資源として捉え、積極的にまちづくりに活用していこうという2013年から始まった試み。

主な目的

① 水辺への親しみづくり

② まちの連携づくり

- ・ 隣町との連携
- ・ 縦割り行政の連携
- ・ 河川と港湾の連携

③ 水上交通の実現へ

- ・ 実現性をみる社会実験
- ・ 栈橋の活用



A. 立地特性の認識

- ・ 運河と港湾の結節点
- ・ 関内地区に広がる旧街道の始点

B. 棧橋の整備

- ・ 都市インフラとしての水上交通
- ・ 防災の水上活用

C. 周囲との繋がり

- ・ 水辺、棧橋との空間的連続性
- ・ 馬車道など既存市街との連続性

D. 時間外利用

- ・ まちの活動は24時間
- ・ 手続き等の使いやすさ

E. 広場の設備の充実

- ・ 電気、給排水設備、映像設備等

F. 遺構の積極的利用

- ・ 文化資源の活用

大岡川夢ロード： 栈橋とウッドデッキ



各管理者・事業者・利用者間の調整組織の必要性

敷地・建屋：横浜市

ウッドデッキ管理：神奈川県治水事務所

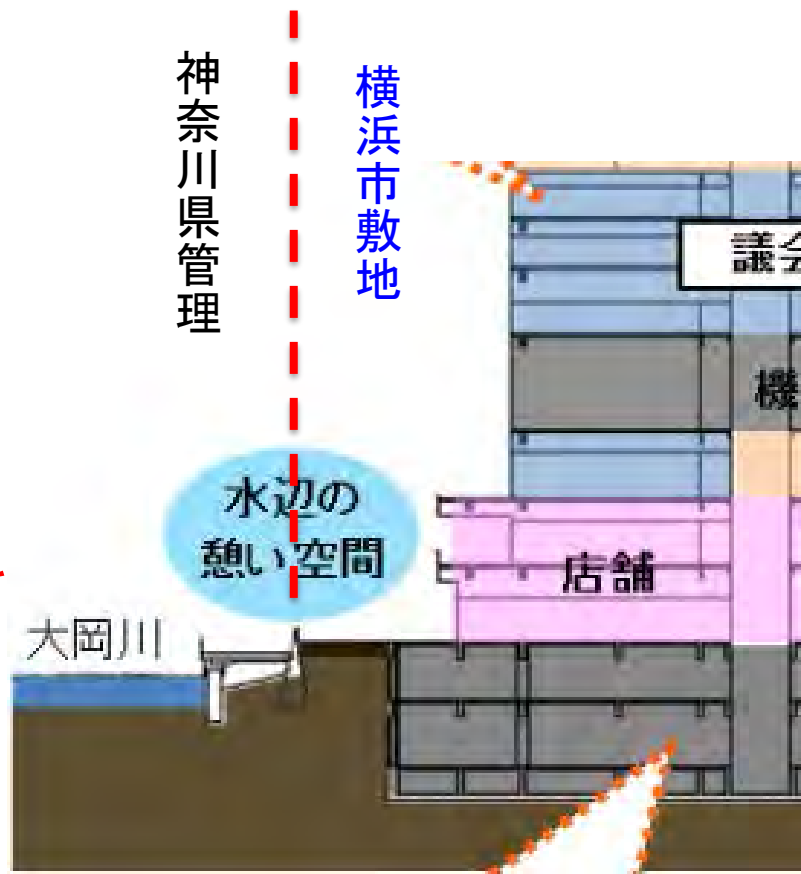
水面管理：
神奈川県治水事務所管理、
横浜市港湾局管理がオーバーラップ

船舶航行管理：海上保安庁

各種水面利用団体及び事業者

ウッドデッキ利用者

県や各団体を巻き込んだ統合的な計画をしないと、水辺に開いた活用には不十分。
水面利用も含んだ横串のマネジメント組織が必要



2020年に向けた棧橋からの街づくりイメージ

飲食テナントによるデッキ利用

北仲開発との水辺の連携

野毛・都橋、日の出町の
川に向けた店舗展開

各棧橋を利用した
運河・舟運利用との連携

運河周遊クルーズ
工場、首都高、橋梁など
産業遺産、歴史、地形

環境、メンタルヘルス等

GUEST

宿泊施設
飲食店、棧橋等の整備



運河ツーリズム

水辺テーマ型コミュニティー

清掃部、水辺茶会部、
水辺ピクニック部
フィールドワーク部、
水辺環境学習部、
防災キャンプ部
水辺マルシェ

HOST

SUP・E-BOAT: 日々の活動
リピーターによるコミュニティー形成
活動の継続・安定



水辺のホスピタリティー

水上活動コミュニティー

横浜シーフレンズ
水辺荘、横浜SUP倶楽部
大岡川E-BOAT倶楽部
横浜カヌー協会
Y高ボート部

水面及び水辺のホスピタリティーへの提言

運営形態への提言

1. 市民の主体的なゲリラ活動を誘発する空気をつくる

→市民主体の有料小規模イベントの規制緩和

→助成金に頼らない継続的イベント運営

→ 横浜らしさ
の象徴

2. 市民活動の「自治的」相談窓口の設置

→各事業者、利用者、管理者を横断する協議体の設定

事業者：水域事業者、商業テナント等

建築計画への提言

・地下駐車場から長さ3mを超えるSUP、カヤックを
棧橋に搬出する動線の確保

・ウッドデッキの電気、水道など完備、ゴミ置場など

・市庁舎内のシャワー、更衣室、交流施設、共有艇庫の完備

・ウッドデッキに開いた市民交流スペース

・バイクオーターとの違いは何か？

月1回のウッドデッキ定期清掃会 + α

大岡川
夢ロードデッキ
サポーターズ

Ookagawa
Yume Road Deck
Supporters

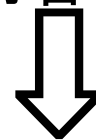


大岡川夢ロードデッキ サポーターズ

Ookagawa Yume Road Deck Supporters

テーマは連携と結節

川と陸をつなぐ
市民と市庁舎と川をつなぐ
ステークホルダーをつなぐ
関係行政部所をつなぐ
河川利用者をつなぐ



「本結び」をアイコン
としたロゴ

芸術をもっと身近に楽しく生活に取り入れて、
元気な社会を一緒に作りませんか。



音楽・アートで笑顔を!



NPO法人あっちこっち <http://acchicocchi.com/>

NPO法人あっちこっちとは？

芸術を通じた社会貢献事業

社会の活性化を目的とし、芸術の領域で社会に貢献できる人材の育成活動と地域コミュニティを繋ぐ活動を行う。

新市庁舎低層部活用に関する あっちこっちから「3つの提案」

1. 世代やハンディキャップを超えたコンサート空間
2. 創造豊かなワークショップが可能になる多彩なスペース
3. 被災地と横浜の架け橋、国際交流の場の拠点として

音楽・アートで笑顔を!



3つの提案

1. 世代やハンディキャップを超えたコンサート空間

- ・本格クラシック音楽を広々としたスペースで
- ・地域の方、また施設入所者など出かける機会の少ない方にも



2013年1月横浜市内での高齢者介護施設でのコンサートより



2015年6月国際教育音楽祭MMCJヨコハマより

音楽・アートで笑顔を!



3つの提案

2. 創造豊かなワークショップが可能になる

多彩なスペース

・アトリウムや水辺など、子どもの感性を育むスペースを活かして



2014年12月「子どものためのわくわくワークショップvol.3」より



2015年9月横浜市内の小学校でのワークショップより

音楽・アートで笑顔を!



3つの提案

3. 被災地と横浜の架け橋、 国際交流の場の拠点として

- ・復興支援のためのチャリティーコンサートの開催
- ・国際交流イベントやワークショップの開催



2015年6月宮城県七ヶ浜町でのカフェ・コンサートより



2015年5月宮城県南三陸町内小学校での豪日合同ワークショップより

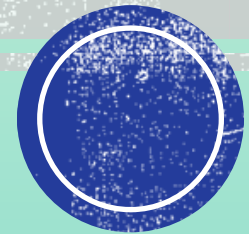
2015.09.27新市庁舎の活用を考えるシンポジウム(第2回)

新市庁舎の低層部の効果的な活用について

30年先を見据えて、フロア機能を考える



認定NPO法人市民セクターよこはま
理事・事務局長 吉原明香



認定NPO法人市民セクターよこはまとは？

- ◆ 1999年設立 2002年法人化
- ◆ 在宅福祉NPO団体のネットワーク組織として設立
- ◆ ミッション
市民による自治社会の実現
- ◆ ビジョン
自立した個人～支え合う地域～暮らしやすい社会
- ◆ 主な事業

横浜市および西区市民活動支援センター管理運営
地域づくり大学校（5区で協働事業として実施）

まちかどケア（認知症ケア）

福祉サービス第三者評価

協働や地域づくりに関する講師派遣



アイディアの前提

- 豊かな市民力がある。市民の公共意識は極めて高い。この背景には、戦後の人口急増に伴う都市問題を、市民の主体的な活動や積極的な制度提案により克服した歴史がある。
- 環境分野においても、公園・河川・水辺施設・樹林地愛護などの活動団体が多数あり、都市公園の文化体験施設や自然体験施設では、地域住民等による管理運営委員会やNPOによる指定管理を行っている。
- 370万人都市、市民の消費行動が社会経済へ与える影響が大きい。
- 2020年以降人口減に転ずる かつ 2025年老年人口が 100 万人を突破
- 平均気温はこの100年で2.6度上昇 ※特にこの30年が顕著

参考資料：横浜市民生活白書2013、横浜市環境未来都市2014、環境創造局HP



オーデトリウム 【AUDITORIUM】

アトリウムは暑い
と思う

- 講堂・公会堂・劇場・音楽堂・映画館など、大勢の聴衆の入れるホールの総称。



東北大学医学部



六本木アカデミーヒルズ

さまざまな用途に使用できるが、特徴的なのは、政策について、市民も、議員も、行政職員もともに考える場・論議できる場であること



1.イノベーション部

イノベーション（協働・共創）センター

NPOは社会貢献と経営を両立、企業は経営と社会貢献を両立する時代へ

オープンデータセンター・ワークショップ広場併設

2.観光部 ※外からきてお金を落とし、3につながる

「暮らすように旅する」滞在型の観光というか新しい出会いと体験に価値がおかれる時代へ

出会いたい人、体験したいこと、それぞれの価値観に合わせた旅の創出

3.居住・就労・購買部

横浜に住みたい、横浜で働きたい方、横浜で買いたい人が増えるように あの手、この手を考え、各部局・企業・NPOに提案



これまでの
横浜を大切に、
これからの
横浜を作る。

横浜市新市庁舎 低層部のあり方への提言



横濱まちづくり倶楽部

基本理念

横浜の『今』と『これから』を表現し
シビックプライドを高揚する場

- 横浜都心部を融合、再生させるための新たな結節点であり中心拠点
- 人の流れの起点となり得る吸引力を持つこと
- 街区全体が一つの「都市広場」として機能すること



横濱まちづくり倶楽部

誇りと憧れを感じられる活動の展開

展開されるべき領域の例

- 新たに創造されている文化や産業の発信
- まちの魅力、課題や将来を知るための活動
- 開かれたなまちづくりワークショップ
- ユニバーサルなホスピタリティの提供



横濱まちづくり倶楽部

空間構成 [1]

「海都横浜」の魅力を高め活かす

- 大岡川の水辺から、玄関としての正面性を持つ
- 建物内外にわたる、水辺に開かれた広場
- 大岡川の水辺プロムナードの日ノ出町方面への連続化



横濱まちづくり倶楽部

空間構成 [2]

多様なアクティビティが可能な、
開放的で可変、かつ相互に連続的な空間

- 「屋根付き広場」～本庁舎ホール～水辺広場(屋内～屋外)が一体の大空間
- 固定的機能配置は最低限、時々々の要請に応じた空間活用が可能な設え
- ヨコハマ創造都市センター、UR都市機構本社、新市庁舎、大岡川の水辺、
の一体的な活動展開ができる空間



公共空間の運営管理のあり方

- 運営はマネージメント能力を持つ組織が担う
- 収益性の確保と、自由な発想での活用

検討の進め方

- 市と専門家、地域との協議組織を設置し検討





横浜 Only One

野毛地区街づくり会

福田 豊



野毛 Only One の シティーセールス ～ まだ誰もやっていないことを！ ～





新市庁舎アトリウムの活用提案 ～ Only One ～

“高さのある空間”をどう活かすか。

どこにもない 名物市庁舎 へ

北仲通北地区と南地区（新市庁舎整備街区）

横浜ベイブリッジ

山下公園

大さん橋

横浜スタジアム

南地区・新市庁舎整備

馬車道駅

北仲通南地区

北仲通り北地区民間開発

北仲通北地区

栄本町線

平成25年10月撮影



北仲通り北地区の計画検討イメージ

新市庁舎

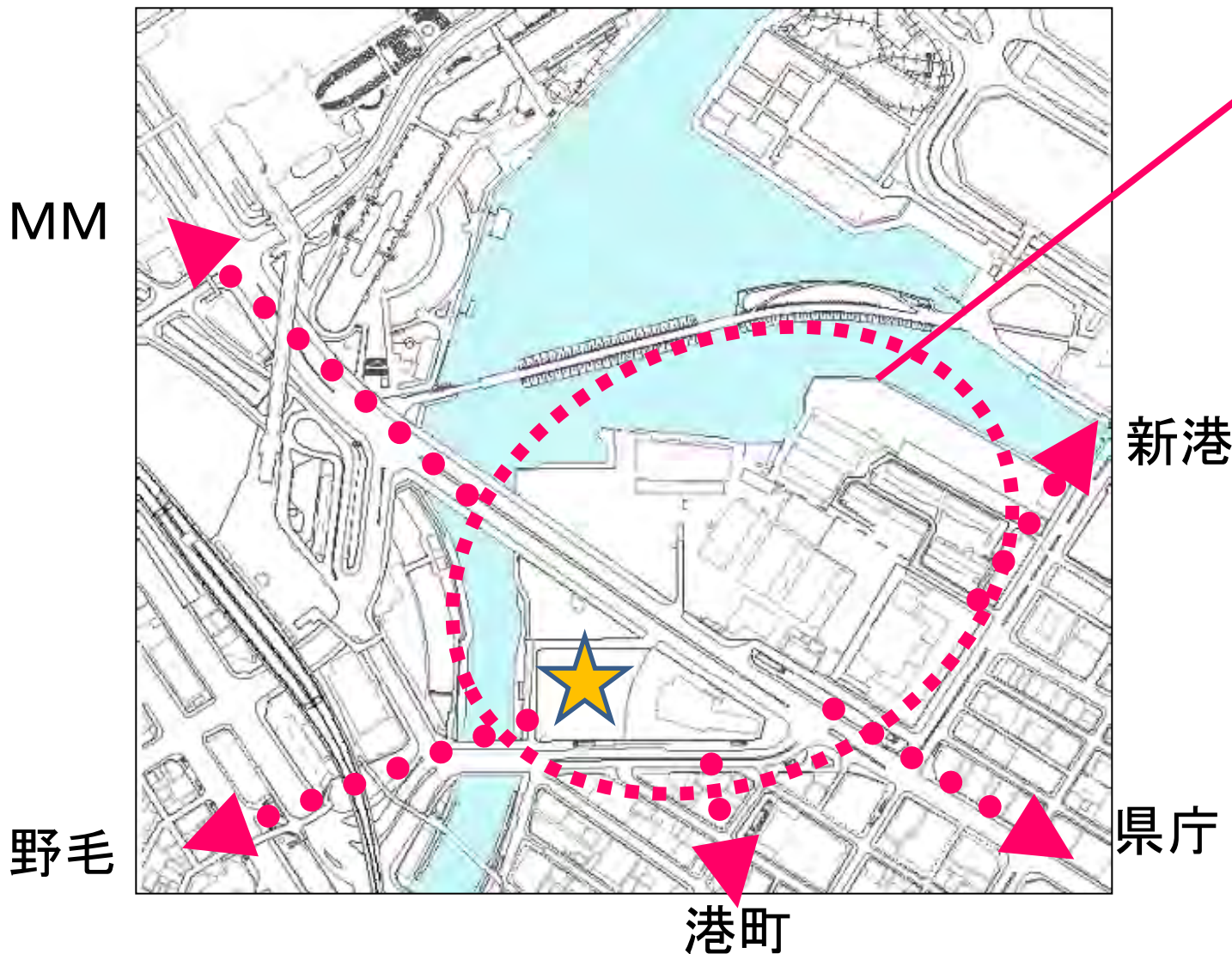


本現時点でのイメージであり、今後変更するところがあります。

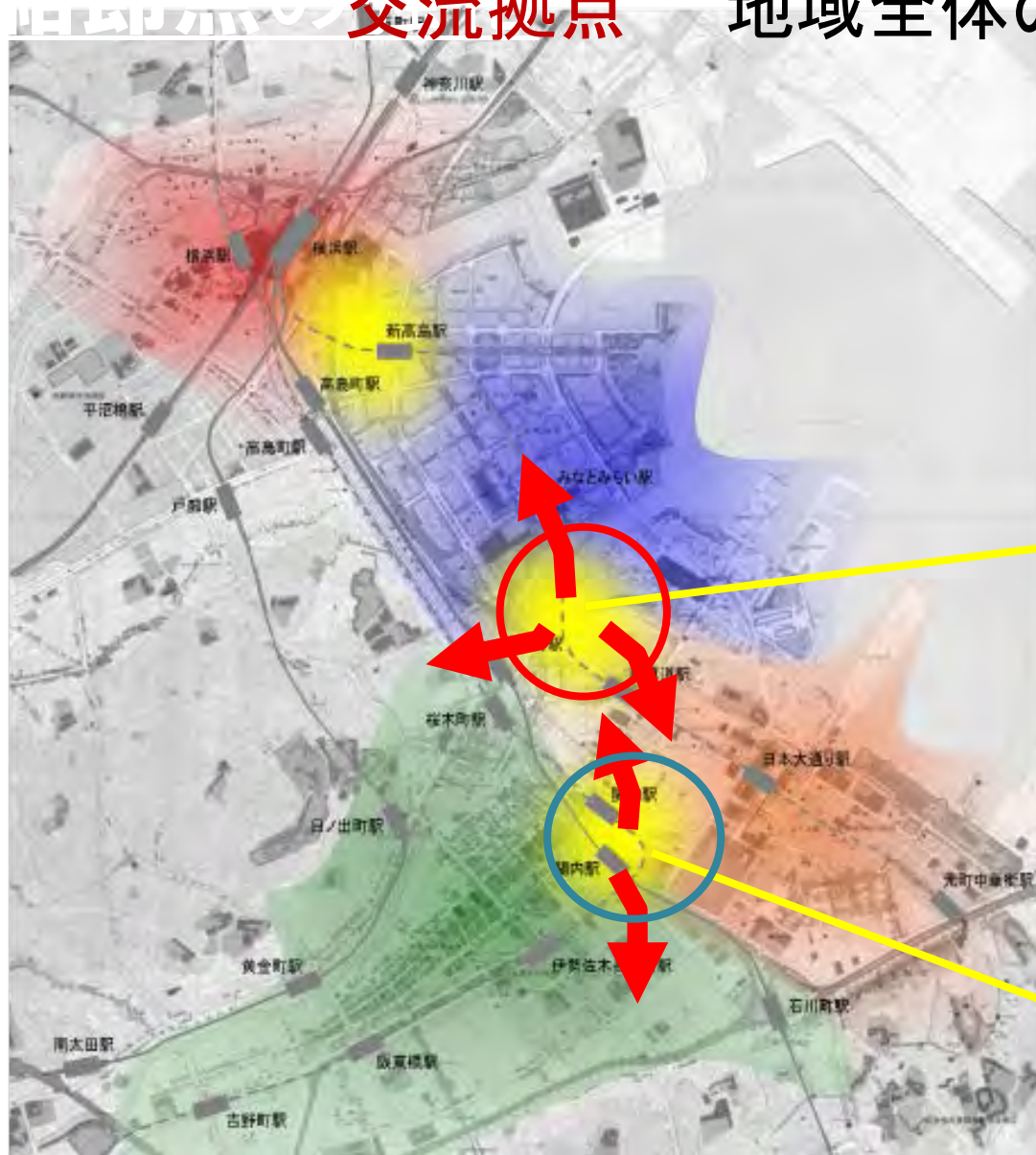
新市庁舎＋北仲通地区の位置的特性を活かす

- ①活動の結節点・交流拠点、②人の結節点・交流拠点
- ③空間特性をいかす(横浜らしさ)港町の歴史と水辺空間

★新市庁舎を含め、業務・商業・文化・芸術
など、多様な機能の集積・交流拠点



①活動の結節点★特徴ある文化と活動を結び 交流拠点 地域全体の活性化を図る



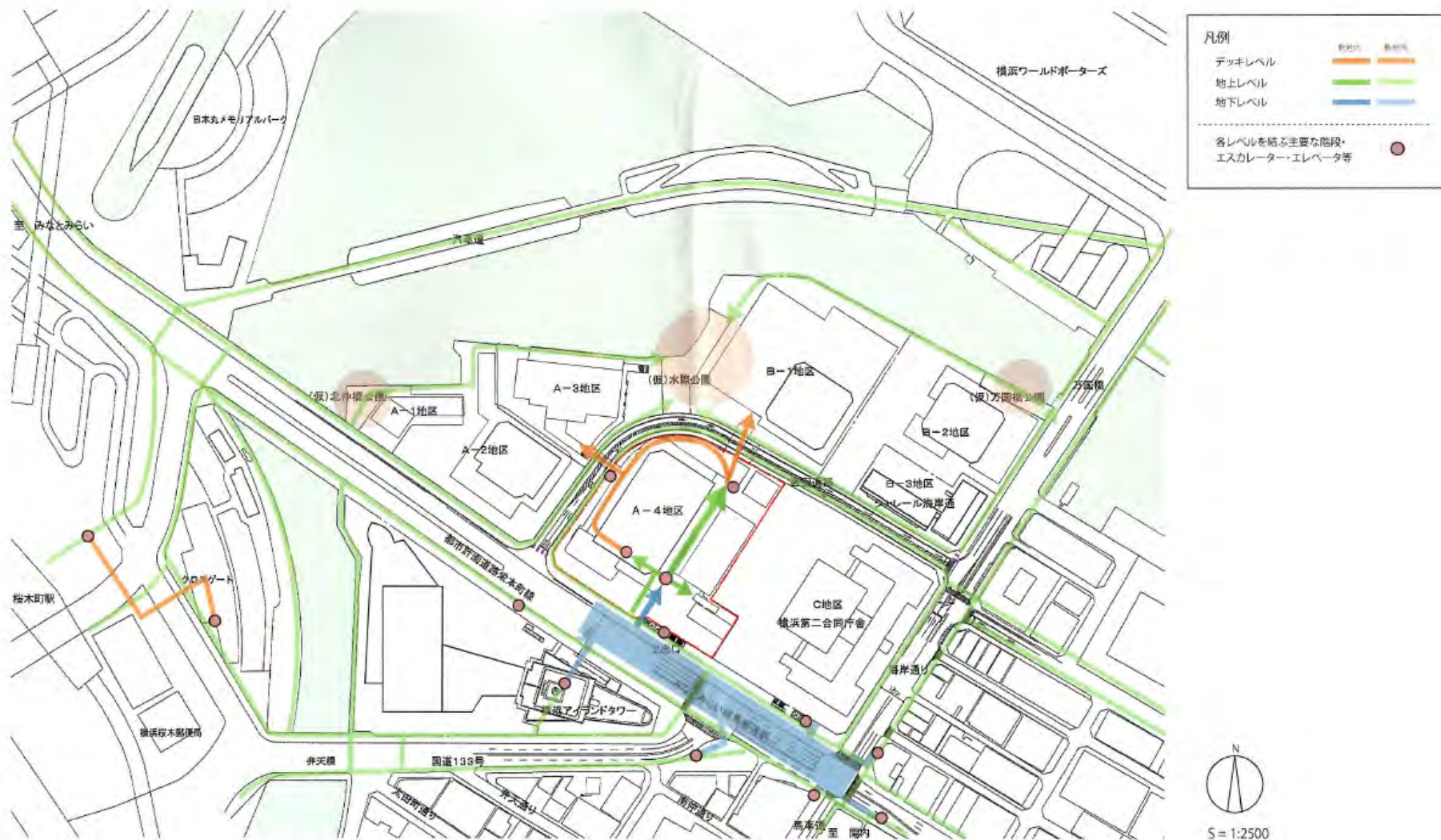
新市庁舎＋北仲通地区

関内＋野毛
＋MM

関内駅周辺地区

関内＋関外

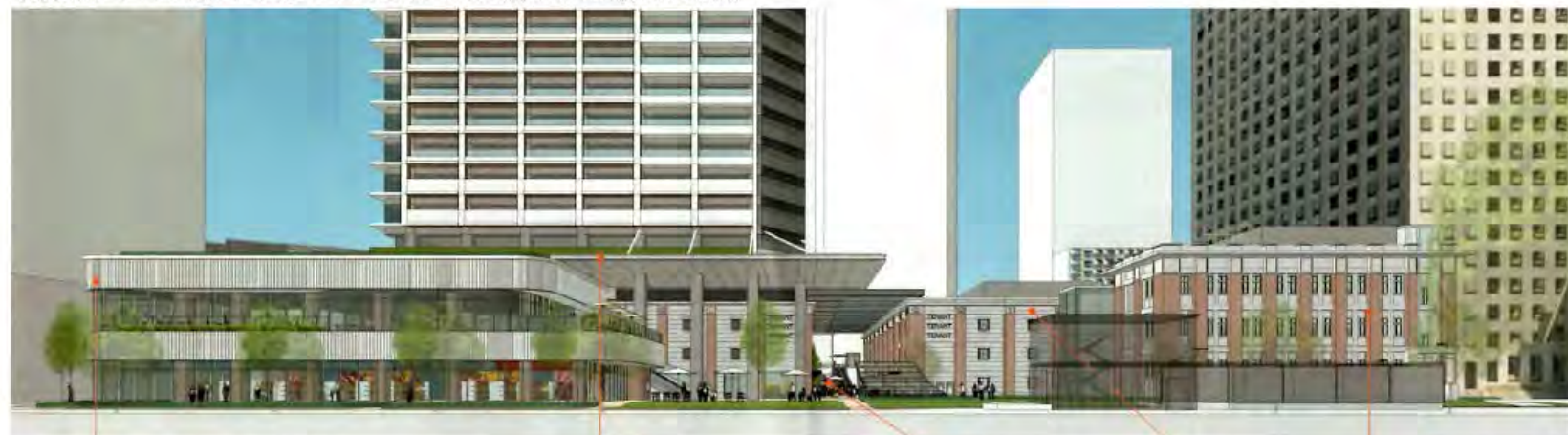
北仲北地区の計画



北仲北地区の計画

低層部デザインコンセプト

関内地区の歴史性を継承したデザインを基調としつつ、みなとみらい 21 地区の先進性と
呼応したデザイン要素をアクセントとしてとり入れ、調和のとれた街並みを形成



- **New ブリック**
 - ・自然素材による壁面の存在感
 - ・落ち着いた色彩を基調
- **大庇**
 - ・北仲 BRICK 棟のコーニスラインに庇を描え、一体的なまちなみを形成
 - ・層を織り成して構え、人々を迎える大庇
- **歴史広場**
 - ・タワーのスパン縮減により、無柱空間を実現
 - ・ガラス庇による明るい空間
 - ・ペールを複層に織り重ねるイメージ
- **復元棟**
- **北仲 BRICK 棟**



旧帝倉倉庫倉庫棟



旧帝倉倉庫事務所棟
<北仲 BRICK>



- **基壇デザイン**
 - ・歴史的景観を際立たせながら、高層部と歴史広場のバッファゾーンとして機能する、タワー基壇のファサードデザイン
- **コーニスラインの統一**
 - ・合同庁舎のコーニスライン（約 21M）と基壇レベル、北仲 BRICK 棟のコーニスライン（約 15M）と大庇をそれぞれ描え、一体的なまちなみを形成

②人の結節点・交流拠点

★桜木町駅～2階歩行者デッキ～市庁舎アトリウム ～馬車道駅地下コンコース～北仲北地区

② 大岡川沿いには、水際線プロムナードの一環として、水辺の憩い空間を整備します。



【水際線プロムナードイメージ】
写真：長崎水辺の森公園

③ 大岡川沿いの水辺の憩い空間とアトリウムをつなぎ、人々が回遊する空間を建物内に設けます。

④ 1～3階には、市民利用機能（総合案内、市民協働スペース、情報提供・相談スペースなど）や店舗（飲食・物販・サービス施設等）を、アトリウムや水辺の憩い空間との連続性を考えながら配置します。



【アトリウムにおけるイベント展開イメージ】
写真：ゲートシティ大崎

① アトリウムは、大きな吹き抜け空間とし、市民や来街者が気軽に集い、親しみ、憩えるような、「祝祭性・おもてなし」の場とします。

- イベント、演奏会、展示など多目的な活用

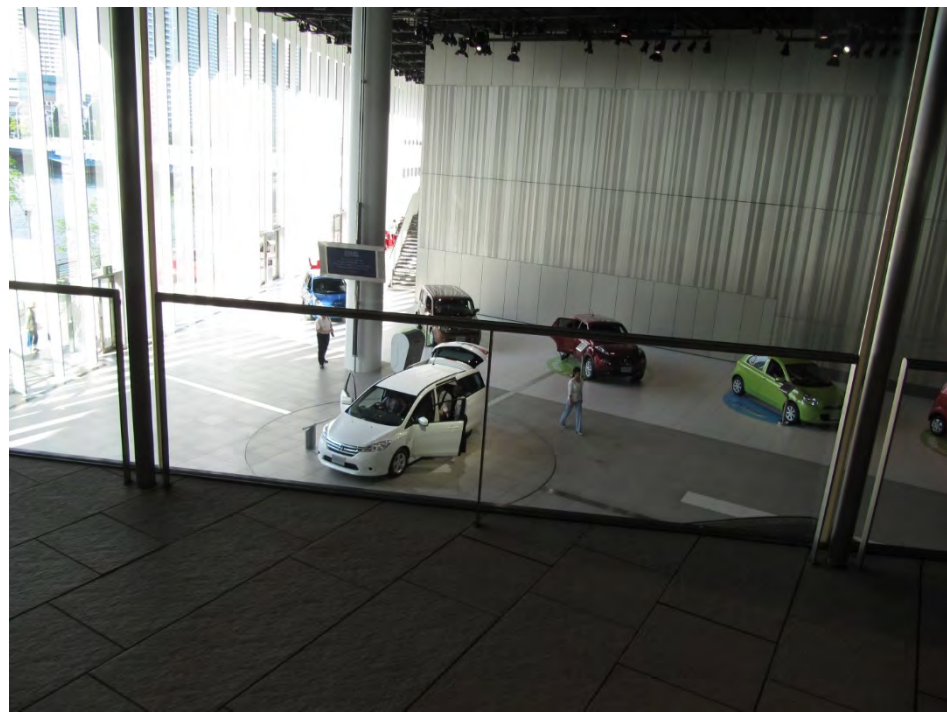
⑤ 道路沿いには、壁面後退により、ゆとりある歩行者空間や広場を創出します。

⑥ 弁天橋方面から、アトリウムへ続く小路を設置し、展示スペースを設けるなど開放的な空間を整備します。

本町線(国道133号線) **1階平面図**
※図面は、発注要件を整理するために作成したイメージ図です。



日産本社ビル内の歩行者空間





【アトリウムにおけるイベント展開イメージ】
 写真:ゲートシティ大崎

① アトリウムは、大きな吹き抜け空間とし、市民や来街者が気軽に集い、親しみ、憩えるような、「祝祭性・おもてなし」の場とします。

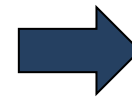
- イベント、演奏会、展示など多目的な活用

③空間特性をいかす(横浜らしさ) 港町の歴史と水辺空間





みどりの軸線整備・水際線の整備



川の軸からの
まちづくり展開へ



港の歴史、水辺空間との交流～横浜らしさの創出

③空間特性をいかす(横浜らしさ)港町の歴史と水辺空間

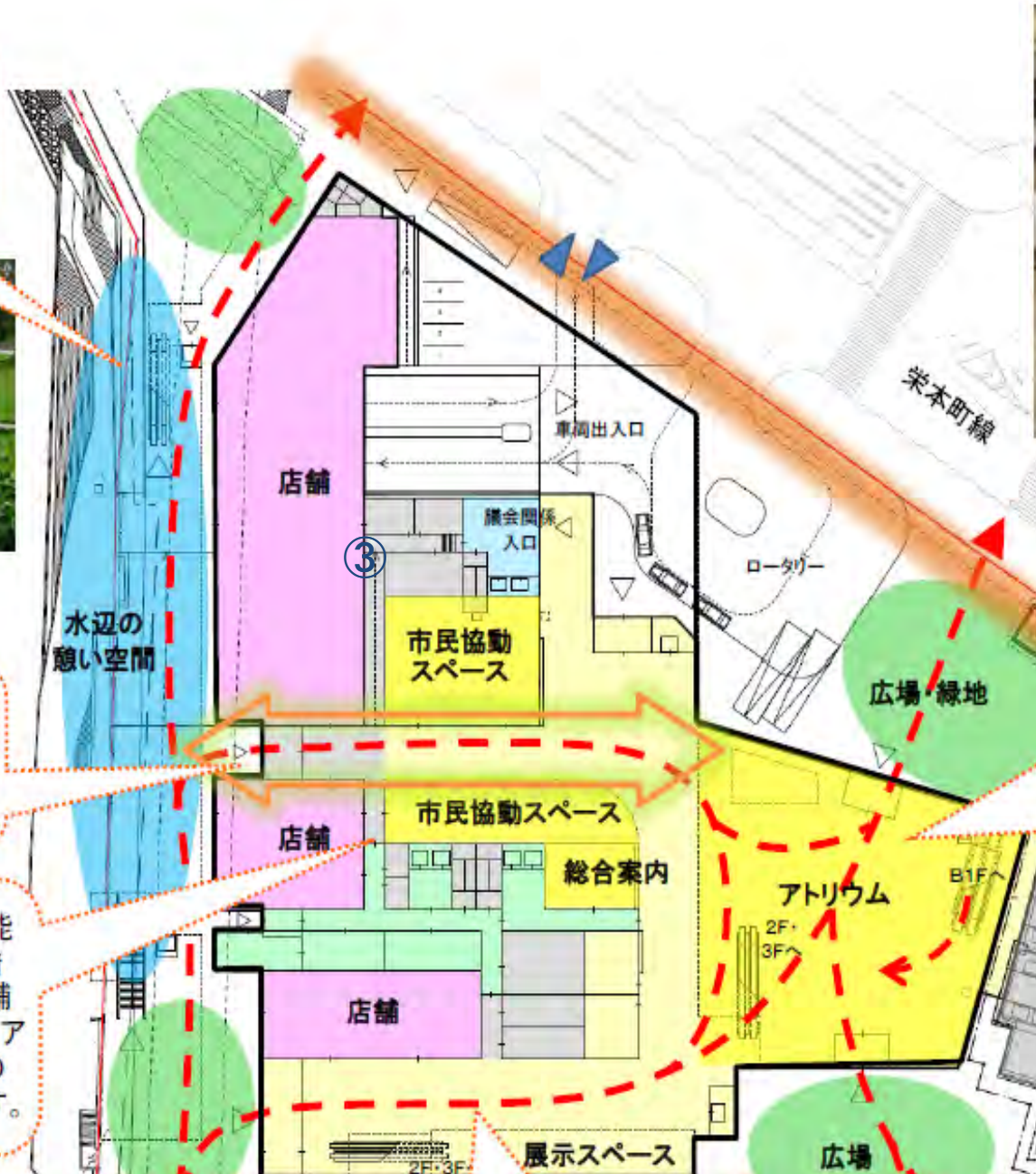
② 大岡川沿いには、水際線プロムナードの一環として、水辺の憩い空間を整備します。



【水際線プロムナードイメージ】
写真:長崎水辺の森公園

③ 大岡川沿いの水辺の憩い空間とアトリウムをつなぎ、人々が回遊する空間を建物内に設けます。

④ 1~3階には、市民利用機能(総合案内、市民協働スペース、情報提供・相談スペースなど)や店舗(飲食・物販・サービス施設等)を、アトリウムや水辺の憩い空間との連続性を考えながら配置します。



シンガポールの水辺活用

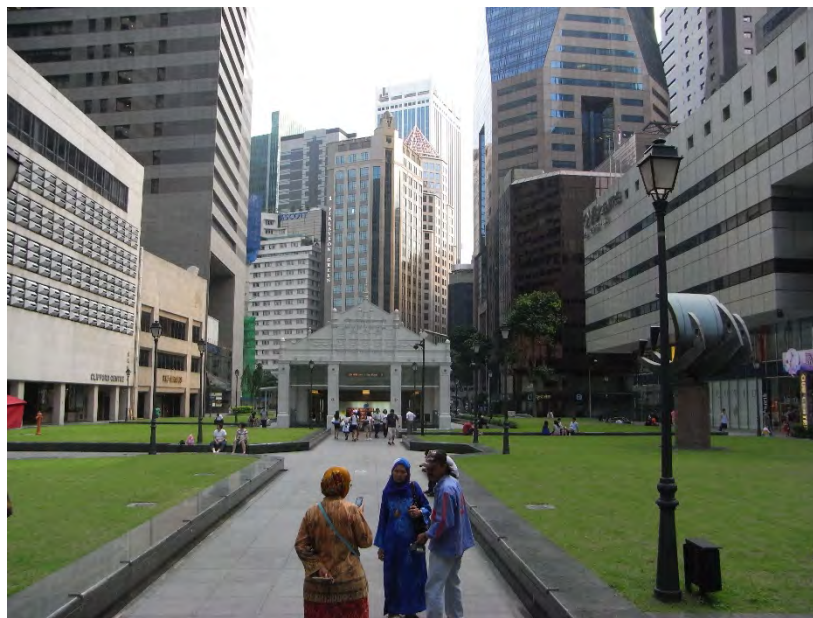


シンガポールの 水辺活用





シンガポールの水辺活用



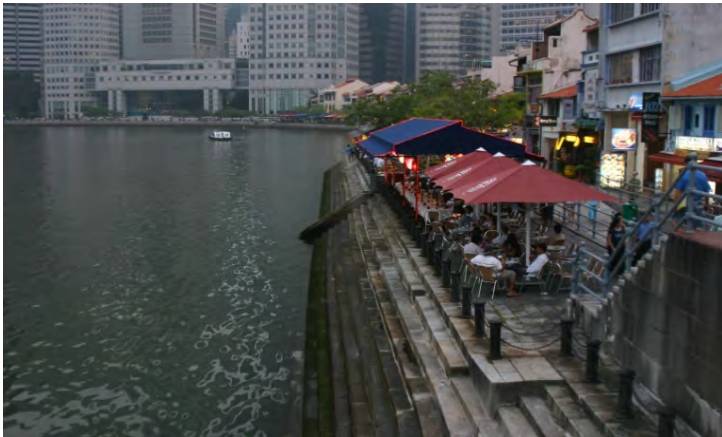
シンガポールの水辺活用





河岸活用のルール

ボートキー (歴史的保存建築物地域)



歴史地区は護岸上の利用が可能

テラスと建物の間は4m空ける



新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2 ～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～

(第2回シンポジウム)

参加者による書き込み意見 サマリー

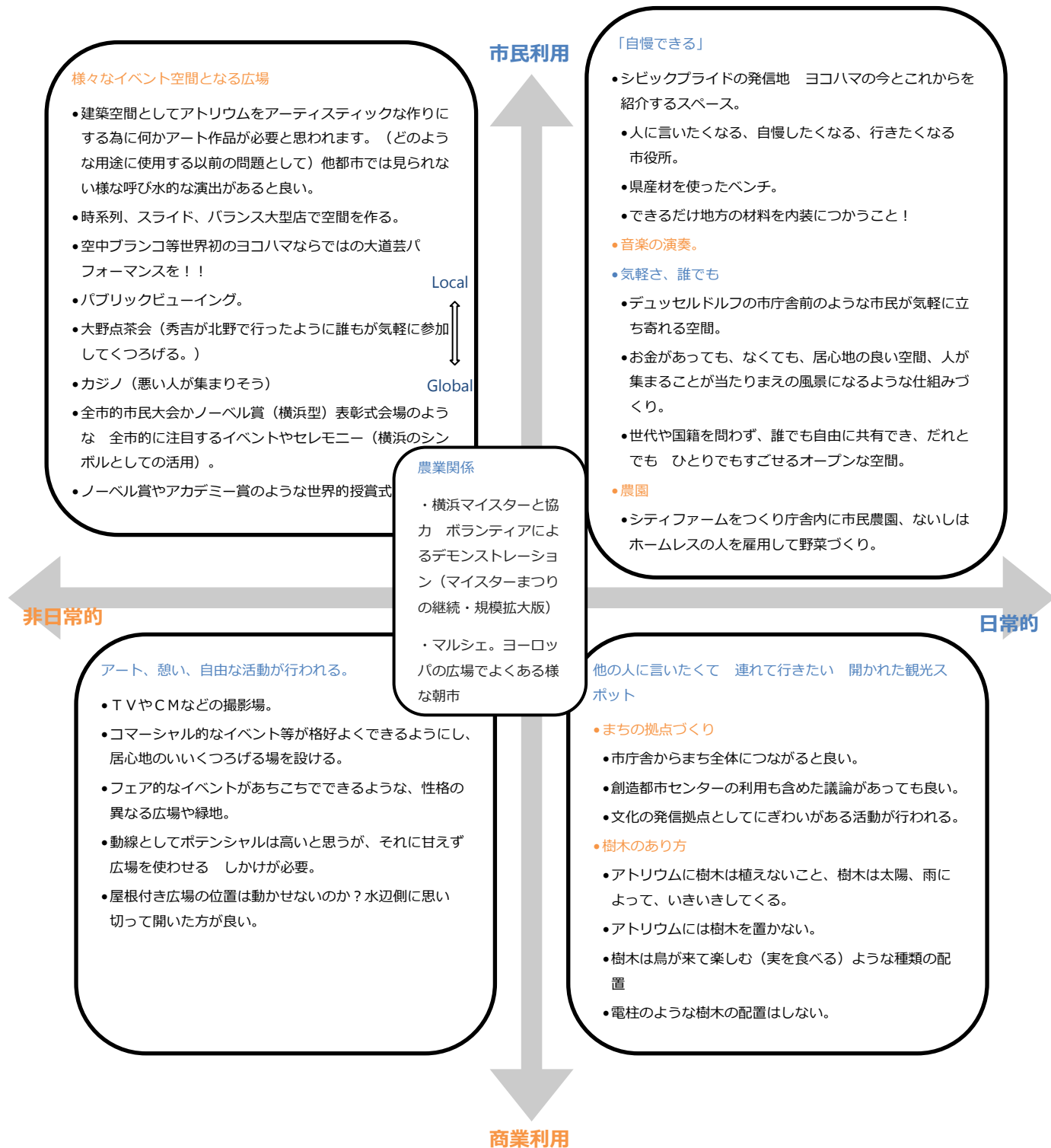
【日時】 平成27年9月27日(日) 18:30～21:00

【場所】 横浜市開港記念会館 講堂

【主催】 横浜新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会

(50音順: 関内まちづくり振興会、市民セクターよこはま、野毛地区街づくり会、馬車道商店街協同組合、HamaBridge濱橋会、水辺荘、横浜市、よこはま市民メセナ協会、横浜商工会議所都市政策委員会、横濱まちづくり倶楽部)

新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること (オープンスペースなど屋根付き広場)



新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2
～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～
平成27年9月27日実施 アイデアサマリー

新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること (商業)

インキュベーション

- ・東京のチェーン店ではなく、チャレンジしたい企業に期間を決めて入店させる。
- ・ヨコハマの今とこれからを紹介するスペース。
- ・(横浜) 国大の「ほどわごん」のようなミニ屋台をつかったインキュベーションショップ。
- ・地主部分は、多様な活用、利用、屋台村(ランチ、弁当屋)で出発したい!! 個人事業スタートのチャレンジの場。
- ・エネルギーetc社会問題の解決に寄与する活動も欲しい。

横浜ならではの

- ・横浜野菜を使った料理が食べられる、フードワゴンの出店。
- ・商業活動の場として「若者」や若い世代…が中心な論点となっているが「しにせのお店」、「上の世代」がきっかけ上げた商業文化も商業スペースに組み入れることも重要では。

建物内での関係 (商業スペースのあり方)

- ・行政のサービスと商業が融合したような空間(庁舎に用がないという人たちが日常的に訪れるような場所になったら良い)。
- ・プロムナードと直接的につながった商業の配置。

活動との関係

- ・商業テナントと市民活動との連携が重要。(アウトドアショップ ⇔ ボート、飲食 ⇔ 釣りなど。)
- ・水辺の求人、大交流会。
- ・水辺アクティビティのアンテナショップ。

周辺との関係

- ・周辺のビル低層部と連動を持たせるような適度な棲み分けができた事業を取り込む。
- ・土日にも活力ある建物になるように人の流れを作る。

こんな店

- ・飲食店。
- ・裏路地に展開される飲食店なども絡めて賑わいをつくる複合的な施設。
- ・政令市や友好姉妹都市のアンテナショップや観光PRブース。

新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること (市民協働スペースなど横浜らしさ・交流)

機能

- ・市外の人への中区、南区以外の魅力の発信スペース（地場産業etc）。
- ・記念図書館と情報公開室がいっしょになったライブラリー。
- ・観光案内総合センターとして、まず来街者が立ち寄る情報センター。
- ・外国人へのサポートデスク&Live放送。
- ・ガラスで仕切ったコーナーを設け、あらゆる国の人々からの相談を受け付ける（子供電話相談室のように）。
- ・横浜で生まれた技術、職人の紹介と今後の育成、ものづくりの大切さを知らせる、横浜のマイスター制度等（ex、マイスター祭り）。
- ・貸し会議、ホール（この会場のような）のような場が、圧倒的に足りないのでは外せないと思います。
- ・フレキシブルな空間づくり。
- ・2つの運河と港湾地区を図る定期船航路を。
- ・オンライン（アバターがつくれる）の屋根付き広場をつくる。
- ・2階に庭園を作る、庭園からはランドマーク、日本丸を借景とする憩いの場とする。
- ・屋外で飲食できるカフェ。
- ・DIYカフェ、市民のものづくりの拠点。

場として・学び、経験

- ・都心部だけでなく、郊外部の魅力を発信する工夫も。
- ・新たなものにチャレンジ出来る場。
- ・市民の考える力（市民力）を育てるような教育の場。
- ・官と民の距離を近くするための場、民…行政の事業、発信を知る。官…民間の声を聞く。
- ・民間、行政、多様なアイデアを受け止める場
- ・市内のNPO・ボランティア団体がプレゼンし、交流し合う場。（Y150ヒルサイドのようなイメージ）。
- ・フューチャーセンターをつくる、対話ができる場、リビング、ラボ。
- ・エクスペリエンス（教育、娯楽、設入、美）を経験できる場。
- ・楽しく海について学べる場。

運営

- ・行政側より、まちづくり団体やクリエイターなどに任せの方が有効でセンス・アイデアあふれたプランが出てくると思う。

ママとこどものために

- ・ママだって議論に参加したい。まちづくりや勉強会にも出席したい。
- ・キッズエリアの設定→子どもをつれていきたい、子どもをつれていかざるをえない人、観光客等のため、こどもを迷惑と思う人にも、配慮（うんどうを思い切りしたい子）して、子どもづれが行きやすいゾーニングをしてもらいたい（キッズエリアを設ける等）。
- ・託児室（託児に使える部屋）→市民観光客が気軽に利用できる夜間も利用できるのぞましい。本日の会も来場者に男性の姿が多い。話し合いの時間設定が子育て世代が参加したい時間帯になっていると感じる。
- ・子育て中のママの意見がきける会の設定を希望します。
- ・こうした議論の会にママも出てきやすいように夜間託児の発想もあるといいなと思います。
- ・お子さんが遊べるスペースを一部につくってほしい。
- ・コンサートや講演会の際の保育スペース、授乳室、おむつがえ、居心地良く過ごせるものがよい。
- ・浜スタとか近隣イベントのときも使える託児スペース、夜もOK!
- ・横浜市の植物、動物等常設で子供達に説明できるスペース。

新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること (水辺・広場)

水辺アクティビティ

- ・水上アクティビティを行う人が使えるランニングステーション的なもの(シャワー、艇庫、ロッカー)ランニングの人も使える。
- ・サップ、カヤックのレンタル、ペイカヤック、ペイサップ。
- ・人力で回遊できるヨコハマランニングステーション
パドリングステーション
サイクリングステーション
- ・ヨコハマの街・空を海から楽しめるように手こぎボートを浮かばせられるように!
- ・水辺アクティビティが気軽に出来る場所
- ・パドリングステーション
- ・ペイバイクみたくペイカヤック
- ・アトリウム空間に水を導き、市民の憩いの空間にすると共に船やSUPが入れるまちにする。

連携

水上交通

- ・水上交通をもっともっと活用したい。(自転車でもちなかを走り、水辺からは船など)
- ・新市庁舎からペイバイクと連携したシステムで水上交通が利用できる仕組みがほしい。
- ・大岡川とのアプローチが最も重要、水上交通の起点となる。

栈橋

- ・常時、上下船できる栈橋の設置を。
- ・水、電気、ゴミ処理の設備。
- ・船着き場や人工海浜を設ける。(庁舎から川へ海へ)

緑ある水辺広場

- ・1階広場、樹木は生きものである、特性を生かした設置とする、自然な感じ。
- ・外構広場は芝生にする、一部、鳥が憩う、実を食べる林をつくる、自然とのふれあいを大切にする。
- ・大岡川水辺と市庁舎広場からは低木中木を植えて切り離す。対岸の建物のウラを眺めてもウォーターフロントの気分が出ない。
- ・未来指向のフロアに比べるとは思うが、長く愛される空間は、ホテルオークラではないが、木、紙、土が多用された、落ちつきのある空間、床。カベはぜひ「木」で。

管理

- ・定期的に清掃を行えるかんきようを整える、すべての川がつながる場を、イベントの開放。
- ・栈橋のカギ、現状のカギ以外にナンバー式のカギを取付ける。
- ・栈橋に錠はいらない。
- ・栈橋に管理人をつける。

その他

- ・大阪とは違う横浜ならではの水辺利用を考えてほしい、マネはx(バツ)。
- ・社会実験はもういらぬ、実質的プレーヤーを増やす仕組み。
- ・横浜市には技術を持つマイスター制度がある、マイスター(造園)の活用場を設ける。
- ・大岡川はウォーターフロントではない、対岸の建物がきたない、東京荒川のWフロント、トリトンスクエアと違いがある。
- ・設備に重点を置くのではなく、運用する人とソフトにお金をかける。
- ・水辺空間利用の前提として、大岡川の臭気、汚さをまず改善しないと魅力にならない。

市庁舎との連続性

- ・水辺から屋根付き広場まで水による動線を作って、水の連続性を持たせてほしい。
- ・低層部平面のプランから水辺への連続的なプランを展開、水辺でのオープンカフェ等
- ・水辺の方へオープンにスペースをとり、その水辺でアクティビティが発生すること。
- ・隅田川沿いの晴海トリトンスクエア、築地聖路加ガーデンが、ウォーターフロントとして良い景観。

連携

- ・水辺活用は新庁舎建設計画以前よりあった為、新たな試みではないが、多数の市民、県民に触れ合えるようにしたい。
- ・大規模水上イベントを県と市挙げてバックアップする空気。
- ・既存施設である夢ロード栈橋の積極的活用を、神奈川県と横浜市がしっかりとタッグを組んで欲しい。

こんな風にも水辺をつかいたい!

- ・自然(風や水辺)が感じられる、気楽に利用できる居心地の良い場所。コーヒーやお酒を楽しめるテラスがあってもよい。
- ・都市農園をつくり、いつも何かを生産するスペースを設ける。
- ・エレクトロンのような夜に光、音と「水」とたわむれるイベント。
- ・たき火ができる場所。
- ・横浜の水辺整備津を観察出来る又は学べる場所の設置。
- ・水辺でのBBQ
- ・毎週、定時にスピーカース・コーナーを設置、市民のショートプレゼン、議論の場をつくる。
- ・世界の窓、大スクリーンで世界の水辺とつながる。
- ・大道芸。
- ・横浜では、水辺を利用した活動がさびしいと聞いたので、人と水(自然)が親しめるようなイベント活動。
- ・水辺の市民活動を補完する利用が望ましい。
- ・全ての民が水辺へ導かれる事例を創って、様々なライフスタイルの場面に利活用する。

新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2
～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～
平成27年9月27日実施 アイデアサマリー

新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること (その他)

インフォメーション

- ・公共スペース、導線に情報を表示する超大型のビジョンが欲しい、映像をカッコよく投影。
- ・横浜市全般のインフォメーションを設置してほしい。

心地よい！生活感、ゆっくりできる

- ・青葉区の隅にお住まいの方でも来ようと思える施設またはアクティビティがあること。
- ・市民みんなでかわいがるような動物をかってみる。
- ・楽しい海洋教育と環境教育の場。
- ・自転車で訪れた人がゆっくりと過ごせるスペースが欲しい。
- ・何となく休みたい場所、仕事等で疲れたときに休める場所、小公園の庭園などのコーナーも可。子供、年寄り一緒に休める場所が必要。
- ・自分の住まう街（市民）のリビングルーム、学びの場、来訪者の心地良い場所。
- ・子どもから高齢者までの声や姿がみえる 市の中心らしい生活感あるづくり。
- ・北側からのランドマーク中心の借景を活用すべき。
- ・保育所など子育て支援に活用。

マネジメント

- ・エリアマネジメントの話がでていたり、横串の調整機能のこともでていた通り、あくまでもものごとを「CAN」の方向で+志向で考えられる仕組みと権限で市・県から独立してもうけて、しっかり「力」がある「限定解除」の組織を本気で考えてください、でないと何をいっても絵にかいたもち！
- ・場だけでなく、コーディネートする人材も絶対必要、むしろその人が大事。
- ・民間団体が建物全体をマネジメント・管理運営したり、テナントを誘致してもよいのでは
- ・行政主導でなければいいプランが出てくると思う。民間にまかせた方がいい
- ・民間の活力を生かした画期的なスペースにしてもらいたい。
- ・中心部の人間の意見が偏りがちなので、横浜市民全体の問題としてとらえていくべき。
- ・郊外の人達の流れが都内へ向いているのをどうにかしてこちらへもってきたい。
- ・ゆっくりと完成する場でよいのかもしれませんが。
- ・市民が参加するプロセスが大切！
- ・市民から自発的に行われるような活動←おしつけや強制ではない、予め使い方が決められていない自由度の余白を残す。
- ・市民指定管理制度、ひとつきごとに市内NPO、市内の元気な団体・企業他がマネジメントして全体の空間をとりしきる。
- ・利用規定も緩やかに、従来の施設管理・運営の視点をもたない、柔軟な発想力のあるスタッフに運営に関わってほしい。
- ・移転によって市庁舎との動線が見えにくくなる地域（関内、元町など）のステークホルダーのプレゼンも聴いてみたい。

建築

- ・ゼロエミッションを目指し生ごみのたいひ化。バイオエネルギーをつかえるようにする。
- ・長期的に変化する使い方に応じていける可変性を重視したフロアのしつらえを。
- ・空間として余白がある（新たな設計が可能な）場。
- ・オリンピックに向けた最先端と古き良き横浜の共存。
- ・新庁舎の低層部外観は赤レンガを使用？

防災機能としての拠点

- ・災害時の観光客や市民、ビジネスマンを守る避難場所、救急医療の場
- ・低層フロアの津波に対する安全性について、相当のレベルで対応してほしい、階段でいっきにあがれるようでない不安です。
- ・水害への対応機能
- ・防災体験場所の設置、着衣水泳、ライフジャケットでの水泳（おぼれた時の体験が出来る場所）

新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2
～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～
平成27年9月27日実施 アイデアサマリー



新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム2
～横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる～

(第 2 回シンポジウム) 議事録

【日 時】 平成 27 年 9 月 27 日 (日) 18:30～21:00

【場 所】 横浜市開港記念会館 講堂

【主 催】 横浜新市庁舎の活用を考えるシンポジウム実行委員会

趣旨及び第1回シンポジウムの概要説明（18:30-18:40）

○司会（船本由佳氏）

皆様、本日は忙しい中、ありがとうございます。これより「新市庁舎の【活用】を考えるシンポジウム」を開始します。本日、司会を務める、船本由佳です。どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、今回のシンポジウム開催の趣旨と、8月28日に開催した第1回シンポジウムの概要について説明します。

横浜市の新市庁舎ですが、現在の関内駅前から北仲通地区に移転することが去年の秋に決定しました。2020年、平成32年のオープンを目指して、現在、設計と工事を一括して行う事業者の募集を行っております。事業者は12月頃に決まる予定で、来年早々から建物の設計がスタートします。

新しい市庁舎の4階から上は、行政機関としての市役所や議会となります。建物低層部の1階、2階、3階には、市民に親しまれ、訪れる人々が横浜らしさを感じられる空間が整備されることになっています。

例えば、みなとみらい線馬車道駅コンコースと直結する位置には、おもてなしの場となる大きな吹き抜け空間である屋根付き広場、アトリウムが設けられ、イベントなどが想定されています。

大岡川に沿った部分は、弁天橋から万国橋に至る水際線プロムナードの一環

として、水辺の憩い空間が整備されます。それとともに、橋詰の位置や屋根付き広場に隣接する位置にも、広場や緑地が設けられることになっています。

また、市民や行政の協働、交流や情報発信の場として、150人規模の講演会などができるスペースが設けられます。就業者や駅利用者、まちを訪れる人のための、約4,000平米の商業施設も整備されることになっています。

これらの空間は、市役所そのものには用事のない市民や観光客なども対象とし、横浜の魅力をアピールしたり、まちの活性化につながる活動を行うことができたりする場として想定されています。

開かれた低層部に様々なスケールや機能が混在することで、多様な活動を受け入れ、これらの空間が生き生きと使われます。そのとき、新しい市庁舎は、横浜のチャレンジ性を見せる場、国内外の客が来る晴れの舞台、そして私たち横浜市民が活動し、交流する場となれるでしょう。

8月28日に開催した第1回シンポジウムでは、広場空間や水辺などの魅力的な活用についての先行的な事例として、富山グランドプラザを手掛けた山下裕子さん、水都大阪を手掛けた泉英明さんによるプレゼンテーションを行いました。

その後、この二人に横浜のパネリストを加えて、横浜における市庁舎のあるべき姿やその活用について、ディスカッションを行いました。

本日は、前回の発表や議論も踏まえて、新市庁舎の低層部に横浜を象徴する開かれた交流の場をつくるために、アイディアを出し合う場としたいと考えています。

この後ショートプレゼンテーションとして、横浜市を中心に活動する6つの地域団体と市民団体から、それぞれの活動を踏まえて、新市庁舎低層部でどのような使い方が考えられるかなどについて発表してもらいます。

およそ1時間のプレゼンテーション後、約20分間の休憩を取ることとしています。この休憩時間を使って会場の皆様方にお願いがあります。前回のシンポジウムの内容や、今回のショートプレゼンテーションでの発表なども踏まえて、屋根付き広場や、水辺の憩い空間をはじめとする屋外空間の使い方、商業空間、横浜らしい機能やデザインなどについての意見を、付せん紙に書き込んでください。ステージ向かって右側に、模造紙が5枚貼ってあるので、模造紙に貼ってもらいたいと思っております。

その休憩の後の1時間ほどを利用して、ショートプレゼンテーションでの提案や、皆様からの意見を元にディスカッションを進めていこうと考えております。よろしくお願いいたします。

終了時刻は、午後9時の予定です。皆様に協力してもらいながら、実りあるシンポジウムにしたいと考えております。

ショートプレゼンテーション (18:40-19:40)

○水辺荘 (山崎博史氏)

私どもは3年前から、桜棧橋を使って、日ノ出町をベースに大岡川を使った水辺のアクティビティを運営している市民団体です。基本的に皆、仕事をしながら週末に河川活動をしています。最近は「SUP/スタンダップ・アドルボート」をメインに運営しております。それから、日の出町町内会のEボートも地元の方と一緒にイベントをやっています。

左下の写真が、市庁舎の前のウッドデッキの写真です。10年以上前にできていて、ずっとその背後地が空地だったので、あまり使われることなく今日に至っています。この後ろに市庁舎ができることにより、このウッドデッキがかなり使われる状況になってくると思います。今、大潮の写真で、すごく潮が干いている状況です。階段上になっていて、特徴的なのは、SUPやカヤックなど非動力船は棧橋として上陸できるデッキになっています。

そのほかに、上の写真のように子供たちの環境ワークショップなんかを町内会と連携してやったりしています。右上の写真は、「水辺ピクニック」といい水辺の後援やウッドデッキでピクニックを定期開催する活動しております。

この水域なのですが、特徴的なのは、敷地と建屋が横浜市のもので、水際とウッドデッキは神奈川県治水事務所が管理しているということです。さらに

水上の航行管理は海上保安庁がやっています。業務船の船だまりなんかも近くに
あります。屋形船とかプレジャーボートなども行き来しています。

ウッドデッキの利用者として今後、商業施設が入ってくると思います。あと
は我々のような市民団体や一般の釣り人等がリピーターとして使うことが予想
されます。

右下の絵を見ると分かりますが、ちょうど水面の前の広場に境界線があり、
神奈川県管理と横浜市の敷地に分かれています。これをうまく一体化して使
っていかないと、多分、水辺は活性化しないだろうと思われれます。

県や各団体が統合的な計画をしないと、水辺に開いた活用は不十分だろうと
思います。水面利用も含んだ横串のマネジメント組織が必要かなと思っており
ます。これだけの調整をやっていかないとならないので、なかなか水辺利用は
難しいです。

2020年完成に向けて、低層部の水辺の活性化を考えてみました。三角形の
上のほうがゲストです。観光客をどう呼び込むかという話は、けっこう色んな
ところに出ていると思います。水辺のにぎわいを商業施設でつくっていくとい
う考え方もあると思いますが。

栈橋を数カ所設置して運河観光、ボートツーリズムをつくっていくという
話もあると思います。

ただ、やはりそこを面白くしていくには、ローカルズム、地域のホスピタリティがどのくらいできているかが重要かと思っています。例えばサップとかEボートとかカヤックが毎週末、どのくらい活動しているかということが、水辺の運河ツーリズムを面白くする要素になっていくのかなと、私は思っています。そこにリピーターが定着し、水辺のコミュニティらしきものができていくと面白いです。

右側に表記してあるのは既存の水辺活動のコミュニティです。これは「横浜シーフレンズ」という、シーカヤックをやっている団体。それから我々水辺荘と、あと横浜 SUP 倶楽部です。今、サップをやっている団体は2団体あります。それから、桜木橋Eボートクラブと横浜カヌー協会が蒔田公園木橋で活動しています。そのほか横浜商業高校ボート部が、よく大岡川で練習しています。首都圏では最も水上活動の活発な水辺です。

逆に水辺の陸側でどういう活動があるのかというと、あまり明確なものはないです。川沿いの清掃活動を行う団体はありますが、例えば水辺で野点をやる倶楽部、水辺ピクニック部とか、フィールドワークをやるような部があってもいいかもしれません。こういう部活みたいなのが大岡川周辺にだんだん増えていくと、水面と陸上の両方から面白くなっていくのではないかと思っています。

次に市庁舎低層部の運営形態の提言です。市民が主体的に活動していくにあ

たり、ちょっとゲリラ活動的なものをもっとフォローするといいかないかと思っています。小規模イベントを有料でやれると、活性化するのではないかと思っています。それが、助成金に頼らない継続的な市民活動につながっていくと思われれます。

水辺を使うのは非常に手続きが面倒くさいので、その辺がアドバイスできるような窓口があるといいです。

それから、今コンペ中ということで、建築計画への提言です。駐車場が地下にできると思います。3メートルを超えるサップやカヤックを陸上のウッドデッキまで運ぶのに、どうやって運び出すかがけっこう重要かと思っています。これができていないと、なかなか使われない桟橋になってしまうかと思っています。

ちょっと話が飛びますが、具体的な活動として、このウッドデッキの清掃は1年半前からやっております。動機としては、桟橋があるので、それをなるべく使おうという思いから始めたものです。たまたま市庁舎も移転してくるので、これを何か一つコミュニティ形成の場に使っていったらいいのではないかという提案です。こういうロゴマークをつくって色々やっています。これをベースにプラスアルファとして、様々なレジャー活動しながら、敷地に親しんでいくというのが面白いかなと思っています。

○HamaBridge 濱橋会（角野渉氏）

僕らがどういう団体かという簡単な説明から入ります。これは横浜の都心部の地図で、関内・関外地区を中心にとらえたものです。濱橋会は、ここの店主や中小企業の人を中心に、住民も一緒に関わっている団体です。ちょうど上を流れる大岡川と、下を流れる中村川、堀川によってはさまれているエリアを中心に活動しております。

濱橋会は、大きな枠組みとして、「横浜をみんなでいいまちにしよう」ということで、この志を共通している人は誰でも入って、みんなで協力して頑張っていけるような仕組みにしようとしています。あるいは、隣町の情報を知らなかったり、自分たちのことしか分からなかったりすることを解消し、どんどん情報を共有していこう、人や情報をつなげる橋になろうとしています。

二つの運河には 44 個の橋が架かっています。そういう運河を活用したことが何かできないかとか、横浜を考える上で「橋」という存在がすごく象徴的なために、僕らは「濱橋会」という名でやっています。

ちょうどこの2本の運河というのは、都心部のみんなが、「横浜の中心部だ」「横浜はここだ」というプライドを持てる共通したアイコンです。なので、この運河を使って、うまくまち、人、情報をどんどんつなげていきましょう。つながって色んなことをやっていこうというのが、濱橋会のメインコンセプトに

なっています。

その取組の一つは、10月17日に「横浜運河パレード」というイベントを企画しています。第3回を迎えます。横浜の水辺で遊んだり、事業をしたり、水辺に関わっている人たちの協力をもらいます。サップ、シーカヤック、カヌー、Eボートという、色んな水辺の活動をしている人が一堂に会して、大岡川と中村川と山下公園の前を回ります。水辺を周回するパレードイベントを行います。

それに合わせて、陸上では、色んなまちが運河パレードの船団に合わせてイベントを行っていきます。水陸でお互いに盛り立てるイベントです。

今まで運河というのは陸と離れてしまっていて、あまり活用するものとしてはとらえられていませんでした。水辺を積極的にまちづくりにも活用してこう、住んでいる人や仕事をしている人にも、水辺に親しみを持ってもらおうというのが、大きな目的としてはありました。

もう一つは、イベントを実施する上で、まちの連携をつくる目的もあります。隣町との連携もあります。

河川は、一つながりの水辺でも、縦割行政で、それぞれ管轄が変わってしまいます。それをうまく連携できるような仕組みづくりを考えます。

あるいは、河川と港湾というとまた、相手にしているものも、使用している言語も全く違います。そこがうまく連携するような仕組みにもなっています。

もう一つは、水上交通がどれだけ実現できるのかを試す社会実験でもあります。既に横浜日の出棧橋と、大岡川桜棧橋、あと一番上流に、蒔田公園の親水広場というのがあります。こういった既にある棧橋をどんどん活用していこうという意味合いもあります。それを運河パレードという一つのイベントで実験的にやっています。

そういう水辺に関する活動の延長で、新市庁舎にどういうものを期待しているかをまとめます。

僕らは、中小企業であったり住民であったりと、本当に草の根的にどんどん盛り上がっていこうと、活動しています。

新市庁舎に対して、まずは運河と港湾の結節点になっていたり、関内エリアの街道筋の一番の支点到りしているなど、基本的にまず、けっこう重要な立地特性にあることを大事にしてほしいと思っています。

もう一つは、これは今回の敷地からはちょっと外れて、県のほうになってしまっているのですが、新しい市役所に関しては、棧橋と一体的に考えてもらいたいです。水辺との関係、アトリウムをつながりをお願いしたいです。

あるいは、市役所は9時5時ですが、まちの活動は基本的に24時間です。そういうまち側に合わせて、市役所の中は使わせてもらいたいです。

コンセプトブックのほうに「にぎわいをつくる」と書いてありました。実は

関内、関外地区もにぎわいが欲しいです。市庁舎がにぎわうというよりは、まちのにぎわいに対してアシストしてくれるような存在になってくれるのが一番有り難いです。

〇あっちこっち（厚地美香子氏）

今日はお忙しい中お集まりくださり、又このような登壇の機会を頂きましてありがとうございます。私はクラシックのコンサートマネジメント会社に 20 年間勤務した経験を生かして、クラシック音楽家、美術家、ダンサーなどの若いアーティストたちを支援する会社を作ろうとしていました。そしてその矢先に東日本大震災が起こりました。災害は今でも起こっています。その際に大切なのは地域のつながりではないか。でも現状はとても希薄になっていると思います。

芸術というのは、つくるのにもパワーが必要ですが、それを受け取った人にもパワーになる可能性があるのではないか。芸術で地域をつなげるイベントができないかと思って、NPO法人「あっちこっち」をつくりました。

横浜市民が横浜市庁舎に遊びに行く機会は、今はほとんどないのではないのでしょうか。新市庁舎に「アトリウム」ができれば、そこが市民の交流の場になるかもしれない。そこで私たちが今まで地域のつながりを考えて活動している

芸術事業に照らせ合わせて、「アトリウム」で出来る三つの提案をします。

一つ目が、世代やハンディキャップのある、なしを超えたコンサート空間です。私たちは、横浜市内の高齢者介護施設、障がいのあるお子さんの通う学校などで、その施設の地域の方々も招いた交流クラシック・コンサートを行っています。普通、芸術イベントはホールやスタジオなどの会場で行っていますので、行きづらいと思っている高齢者や障がい者、小さなお子さんを持つ人たちが気軽にイベントに参加できる場に「アトリウム」の構造と環境を整えてほしいです。私たちは社会貢献に限った芸術活動をしています。芸術をこちらから届けるということで「あっちこっち」という名前を付けています。アトリウムに行けば気軽に芸術イベントに参加出来るという事が周知されれば、横浜のあちこちに住んでいる人たちが来てくれる可能性があるのではないかと思います。また私たちは毎年横浜みなとみらいホールに世界中から集まったクラシックの若手演奏家の1ヶ月ほどのセミナーを行う国際教育音楽祭の制作をしています。世界中から集った国際セミナーを受けた若手アーティストが新市庁舎のアトリウムでコンサートができれば、そこが若手演奏家の発信の場になるのではないかと思います。

二つ目です。子どもたちが本格的な芸術に触れる機会というのは意外と少ないです。そこでその機会を作ろうと毎年、横浜で行っているシリーズがありま

す。ダンサー、美術家、若手の演奏家が子供たちと一緒に作り上げる「ワクワク・ワークショップ」です。その運営は将来、保育士になる学生たちに担当してもらっています。このワークショップもアトリウムでできるかもしれません。

ワークショップといえば、横浜市教育委員会が主宰している「アーティストを学校へ」という、アーティストが小学校の授業を受けもつプロジェクトがあります。私たちはそのコーディネートを担当させて頂いています。子供たちはここで色々なことを学びますが、その経験は一度で終わってしまいます。もしかしたら「アトリウム」で継続した何かができるかもしれません。色々なアート体験ができる拠点であってほしいという願いもあります。

また、アトリウムの近くには水辺があり、公園ができると聞きました。そこも使った何かができれば、子供たちの色々な可能性が広がるのではないのでしょうか。

最後の三つ目の提案です。

私たちのスタートは東日本大震災です。2011年8月から毎月、福島県や宮城県の仮設住宅集会所で、若いアーティストと一緒にコンサートやワークショップを開いています。また海外の芸術のNPOと共同して、被災地の小学校、幼稚園、保育園などでコンサートやワークショップを行っております。

この経験を活かした復興支援のチャリティコンサートが市庁舎のアトリウムで開催できれば、そこから防災について考えることもできるのではないのでしょうか。

ここにはゼネコンの方もいると伺いましたので、建設するにあたりまして私たちからのお願いです。私たちは色々な施設で様々な芸術イベントをしています。ところが、新しい施設でありながらも、音が漏れてしまったり、音や声がうまく届かなかったり、グランド・ピアノの搬入導線がなかったなど、色々な盲点が見つかる場合があります。バリアフリーを考えたつくりはもちろんの事、空間を生かせる広い開かれたスペースづくりを多面的に是非考えてもらいたいです。

また、こちらに行政の方がいましたらお願いします。「アトリウム」はきっと交流の場になると思います。このアトリウムに限らず、低層部分の施設を是非、市民の「チャレンジスペース」としてもらいたいです。例えば、若い人たちが会社をつくりたいときには事務スペースを、芸術家には発表の場を、商売を考えている人には仮店舗スペースを、飲料店を考えている人には、仮設の飲食店ができるように。こうした初期投資は、若い人たちにはハードルが高いです。横浜市がここで若い人たちのはじめの一步を助けてくれることで、その後の経済も回っていくのではないのでしょうか。

○市民セクターよこはま（吉原明香氏）

私は初め、この話をもらって準備しているときに、「30年後を考えてみようかな」と思いました。それで、頭を動かしたわけです。後で色々思い返すと、もう私の想像を超えたところを行っているはずなので、これから話すところは、15年後、2030年ということだと思います。

市民セクター横浜の紹介です。私たちは1999年に設立しました。ホームヘルプやデイサービス、サロン活動、移動サービスなど、様々な市民活動を行う団体のネットワークとして設立されました。

ミッションは、「市民による自治社会の実現」で、ビジョンは「自立した個人、支え合う地域、暮らしやすい社会」を目指しております。

主な事業としては、横浜市市民活動支援センターの管理運営、地域づくり大
学校、認知症ケアに関わる事業、福祉サービスの第三者評価、協働や地域づくりに関する講師派遣となっております。向かって右手にあるのは、地域づくり
大学校のパンフレットです。今年も5区でやっています。

アイディアの前提を考えてみました。15年後というと、色々変わっていることがあるだろうと。

なぜ15年後かというと、市庁舎というのは恐らくは、60年とか、相当長い

間使われるものであるだろう。であれば、5年後よりは少し先のことを想定したほうが、結果としていいフロアになるのではないかと思った次第です。

「横浜の特徴を象徴するようなフロア」というようなコンセプトもあります。私は、横浜の特徴は、とにかく豊かな市民力があるというところだと思います。市民の公共意識は極めて高い。この背景には、戦後の人口急増に伴う都市問題を、市民の主体的な活動や積極的な制度提案により克服した歴史があります。

私がここで取り上げたものは、横浜市の市民生活白書、環境未来都市 2014、環境創造局のホームページから引いてきたものを加工したものです。私がそう思うだけでなく、ある程度これはオーソライズした内容を書いております。

環境分野においても、公園、河川、水辺施設、樹林地、愛護などの活動団体が多数あって、都市公園の文化体験施設や自然体験施設では、地域住民等による管理運営委員会や、NPOにより指定管理を行っています。とてもとても積極的に、横浜市は民に公共を開いている都市だと思います。370万都市ですから、市民の消費行動が社会経済に与える影響もとても大きいと思います。

2020年以降、人口減に転じると言われており、また、「2025年、老年人口が100万人を突破する」となっております。平均気温はこの100年で2.6度上昇しておりますが、1.6度ぐらいは特にこの30年が顕著です。これからもじわじわと、温暖化が進んでいくのかなと、こんなことを考えながら、これ

からのアイデアは発表します。

アトリウム、私も本当に素敵だなと思っています。先ほど最後に温暖化の問題を言いました。まあ、アトリウムをつくると言っても、サンルームではないのだから、ちゃんと空調など工夫されていることは、私も分かっています。どちらがいいかなと考えたときに、ここに書いてあるような様々な多機能の場所が、ロビーとオーディトリウムが両立するような形で入り口付近に持てないだろうか。先ほど「あっちこっち」さんの言われたチャレンジみたいなものが比較的しやすい、様々な人が様々な意味で活動できる空間というのが、ある程度音響なども考え抜いた上であったほうが、何となく中途半端にならないだろうかという心配の下、少し考えました。

ただ、私がこれをここに置きたいと思ったのは、政策についても市民、議員、行政職員が共に考え、論議できる場が、オーディトリウムでできたらと思いました。

ほかにも様々な機能で、「イノベーション部」は、協働共創センターのイメージです。NPOは社会貢献と経営を両立して、企業は経営と社会貢献を両立する時代になっていると思います。そしてオープンデータセンターやワークショップ広場などを併設した空間を「イノベーション部」としてはどうか。

そして観光部。暮らすより旅するとか、滞在型の観光とか、先ほど水辺の団

体も言いました。この横浜に色々な体験、出会いを求めて来る方々の新しい価値観に合わせた旅の創出をここで出来ないかと。そして、そんな横浜の魅力から、居住したり、就労の場にしたり、ここへ帰るから横浜に来たい、住みたい、働きたい。そういう層が増えていく、こんな新市庁舎の機能を考えました。

○横濱まちづくり倶楽部（近澤弘明氏）

私ども横濱まちづくり倶楽部は 2001 年にできました。関内地区を中心とした関内・関外地区中心市街地活性化を考える会です。私は元町で商売をやっております。まちの人、行政の人、都市政策者、建築デザイナー等々が集まってつくった会です。

今回のテーマとしては、「これまでの横浜を大切に、これからの横浜をつくる」に則った色々な活動をここでしていってどうかと考えております。

この新市庁舎の低層部をどうするかというのは、2 次的な問題です。市庁舎が移った後のエリアをどうするかということが最大のポイントです。関内駅周辺から一気に 6,000 人がこれだけ移動するので、6,000 人が抜けた後どうするかというのは大変重要なテーマです。こちらと今回の話とは当然、連携していかなければいけないです。

もともと我々が 2001 年、もっと前からやっていたのですが、「関内地区を何

とかしよう」ということで一番問題だったのは、どう考えても衰退していくと。確かに今、衰退しております。ビルが新築される率は大変低いです。2階以上を使っていないビルもたくさんあります。こうした関内地区から6,000人が抜ければ、もっと衰退することは目に見えているわけです。これを何とかするため、こちらも十分な、補助的な施設にしてもらいたいということです。今、横浜で紹介したい人たち、団体、企業と、これからの横浜を背負うであろう同じような団体等について、ここを使って紹介をしていくということが一つのテーマだと思っております。

私はあるところで「シビックプライド」という言葉を聞きました。ここに集まっている皆さんは、横浜に対してシビックプライドを持っていると思います。そういうものを前面に出して「我々は横浜が好きだ。横浜を何とかしよう」ということで燃えている人たちに集まってもらうというテーマに則ってやれば、ここは地域的にも、みなとみらい、あるいは、山下公園の水際線と、関内駅までのT字路の結節点に当たる場所になります。そういうテーマを常に発信し続けていけば、おのずと利用者が増え、ここへ集まる人が増えてくるだろうと思います。

当然、文化、芸術、産業全てのこれからのものを見せていく、あるいは、今、旬なものもを見せていく。それから、まちの魅力、課題、将来を知るための活動

をここで行っていく。開かれたまちづくりワークショップをここで行っていく
というようなことを、是非やっていきたいと思います。

横浜というところは、30年ぐらい前は、水際線のうち我々民間レベルの一般
市民が触れることのできる水際線は、たったの3パーセントでした。山下公園
ぐらいしかなかったです。今のみなとみらいも全部、立入禁止です。水辺に接
している中心市街地がある横浜にもかかわらず、水際線を一切、市民に開放し
てこなかったのが、戦後の横浜の歴史です。それが今大きく変わりつつありま
す。その変わりつつある一つの象徴として、大岡川に面して市庁舎が建つわけ
です。そういう海都横浜、これだけ近くにこれだけ重要な施設が集約している
ところに水際線を大きく持っているまちというのは、世界中を見てもめったに
ありません。

これはつくる時の問題ですが、もう既に「ここはレストランにしよう」と
か、「ここは何々にしよう」と決めているようです。全てが開放的で、色んな用
途に使え、それがフレキシブルになるように、是非設計の段階で考えてもらう
ことが非常に重要です。隣にはURの本社がありますが、その向こう側には横
浜創造都市センターがあります。ここで文化・芸術についての一つのセンター
機能を持ったものができております。こういうものがやはり一体化して使える
ようなつくりには是非してもらいたいです。

こういうことを進めるときに一番重要なのが、それをどうやってリードし、あるいは、取りまとめていくかということです。今までは大体、行政がこういうことは全部していました。

ただ、行政というのはどうしても、皆さんが替わります。替わると、前と同じことはしたくないと思う人もいるし、前と同じではつまらないと思う人もいて、どうしても継続性を維持することが大変難しいです。

我々の会長は、元横浜国大の都市政策の一任者である小林重敬さんです。彼が提唱した「エリアマネジメント」という考え方があります。エリアを経営していくということが非常に重要だと言っています。行政と民間が一緒になって、関内駅周辺からこの新市庁舎の下も含めて、あるいは、もちろんみなとみらいも含めて、横浜の都心部を今後どうしていくかというマネジメントを是非していくべきだと、我々は思っております。そうすることによって、今、色々話が出てきたものがうまくマッチングしていただろうと考えております。

○野毛地区街づくり会（福田豊氏）

私は野毛のまちづくり会の理事をやっています。もう一つ、野毛大道芸と横浜大道芸のプロデューサーをやっています。そういう観点から、何か今度のアトリウムに関して提言しろということなので、私なりに提言します。

まず横浜の今まで来たこし方の一番の特徴は何かというと、二つの大きな波がありました。一つは幕末、つまり、日本の開港によって、外国人が日本にきました。例えばみんなチョンマゲを切って、普通の髪型になった。それから、下駄を履かないで靴になった。それから、和服にしないで洋服になった。こういうふうに、ヨーロッパの文化が初めて入ってきて、それを消化して日本中に敷衍（ふえん）していったのが最初です。

その次の波は、第2次大戦に負けて、アメリカ軍が大量に入ってきた。これは沖縄以外では、横浜が一番、駐留軍がいました。講和条約が結ばれるまで、伊勢佐木町、関内、みんな占領されました。

そこで、アメリカ文化がドーンと入ってきた。その結果、横浜からジャズが日本中に行った歴史があります。

ですから、横浜の特徴は、実験のまち、毒見のまちです。マッカーサーが来たときも、日本の政府は、横浜でアメリカンボーイズを止めようとしてました。斎藤麟という劇作家がいます。『グレークリスマス』という劇の中で、当時の日本の上流の婦人たちは、アメリカ軍の機嫌を取って、何とか横浜にくい止めて、司令部だけが東京に行ったという歴史があります。

そういう意味で、やはり横浜は外国文化と触れて、混血児を生み出すというのが特徴です。まずオンリーワンというのは、日本中にないものを横浜で示そ

うと。そうすると、汽車や電車に乗って、みんな見に来るわけです。そういうことを是非、今度のアトリウムでもやってもらいたいと思います。

これは、あるいは、混血児を生み出す。人間全て、生み出されたときにはオンリーワンなのです。それがどういうふうにして日本中に敷衍（ふえん）していくか。

例えば産業で言えば、ビールは横浜で生み出されて、キリンビールの前身ができました。だけど、キリンビールは今、本社が東京です。同じようなことが、例えば三菱重工もそうです。横浜に船渠（せんきょ）をつくって、それが大きくなって東京に本社を構える。

こうやって横浜市は、オンリーワンの実験をして、日本中にあまねく渡っていくという役割を長い間してきましたけれど、今後もそういう場でいてほしいと、私は強く思って、今日提案します。

というのは、アトリウムは 1,340 平米ですか。そのうちの半分ぐらいは屋根ができます。屋根の高さは 19 メーターです。19 メーターというのは、通常の住宅でいくと、7 階のフロアに近いです。偶然に横浜市は 19 メーターの屋根をつくったということで、僕は喜んでしまいました。ここで空中芸をやって、例えば綱渡りや空中ブランコを定期的に横浜の皆さんに見せれば、それを聞いて首都圏からみんな見に来ます。そういうシティセールスを是非やってもらい

たいです。

そのために何が必要かという点、空中芸は、最大で 10 人ぐらいが上からぶら下がるわけです。綱渡りも、幅が 30 メーターか 40 メーターありますから、綱をピンと張るためには、構造をきっちりしなければいけません。

そのためには、新しい横浜市の建物を、空中芸ができるような構造にすると。屋根の下はマスかけで頑丈にして、上から空中ブランコをぶら下げられるようにして、今の UR のほうにもそういう構造のものをつくらないと、これは実現しません。

このためにはそれだけのコストがかかりますが、是非これをやって、首都圏から色んな人が押し寄せてきて楽しんでもらえるようにしてもらいたいです。

休憩 + 意見の書き込み (19:40-20:00)

パネルディスカッション (20:00-20:50)

【 横浜を象徴する「開かれた交流の場」をつくる 】

登壇者：大西晴之氏（横浜商工会議所）、西田由紀子氏（よこはま市民メセナ協会）、国吉直行氏（横浜市立大学）

モデレーター：片岡公一氏（山手総合計画研究所）

○片岡氏

前半、各団体から色々な意見が出てきました。かなりたくさん意見、アイデアが出されてきているようです。後ほど紹介しながら議論を進めます。

私自身は、主に横浜の都市づくり、建築をやっている会社で勤め、都心部の色々なプロジェクトにも関わっております。そういった視点からも、色々、皆さんの意見やアイデアを楽しみながら進めていきたいと思っております。

パネルディスカッションとしては、個別のアイデアを深めていくのはもちろんあると思います。ですが、もう少し全体として、一番重要なところはどこなのか、何に気をつけ、何のためにやっていくのかも少し話をしながら、全体と具体的な部分の両方から話をしていければと思っております。

最初に、今日の議論を進めていくに当たり、「こんな視点が重要ではないか」というのを、3人から三つずつぐらい紹介してもらいます。それぞれの立場からの視点も含めて話してもらえればと思っております。

○大西氏

私の勤務先は創業以来、地元横浜です。その関係で、横浜商工会議所の議員を務めています。本日の発言は、地元の経済人としての立場で発表させていただきます。それでは早速、3点ほど話したいと思っております。

第1点として、今回の新市庁舎建設計画は少しオーバーに言うと、横浜の今後100年を見据えた構想だと思っています。その間色々ニーズと社会環境が変わることから、最も大切な二つの要素としては、「多様性」と変化に対する「柔軟性」の二つが重要と考えております。

今回の新市庁舎の建設予定地は、新しいまち・みなとみらいと、歴史ある関内エリアとの結節点でもありますが、既存の関内エリアの活性化が必要なのではないかという議論については、商工会議所としても前々から要望書を提出しています。その関内エリアを今後どうしていくのかというマスタープランや将来像を踏まえて、みなとみらいと関内の結節点である今回の地区との整合性を図り、バランスの取れたものにしてもらいたいと思っています。

いずれにしても、まちにとって一番大切なことというのは、にぎわいの創出であり、内外の人々が「横浜に行ってみたい、来てみたい」と思い、満足できる内容があることだと思います。その一つの拠点として、今回の計画は非常に意義のあるものだと私は考えております。その結果、うまくいけば、横浜の都市としてのバリューアップ、魅力のあるまちづくりにつながってくるのではないかと。そして、住みたくなり、働きたくなるようなまちへ発展していくものと考えております。

2点目としては、本日のテーマである「開かれた交流の場」に関連する内容

です。概して公共の施設は、使用目的や利用時間の制約等の縛りが色々出てくるものです。こうしたことに対応して、逆に、行政だからこそできる催し物を実施したり、使用・利用への配慮を重視することが大切なことではないかと思います。それにもまして重要なことは、運営者・プロデューサーの問題だと、私は考えております。それが全体の成否に関わってきます。運営については是非、民間のやわらかい発想で、有効な企画実現ができることを強く望んでいます。

運営については、アトリウムや商業施設、川に面した部分など、全部が一連のものとして関係があります。こうしたものを一体的に捉えてトータルで企画運営をすることが望ましいと考えております。

3点目としては、オープン当初は非常に人も押し掛けて、にぎわうのですが、しばらく時間がたって、他に新しいものができる、人の波があつという間にそちらに移ってしまうというのはよくある例です。そこで、継続的なバリューアップは、運営者の問題と併せて、管理維持の上で重要な問題であり、質の高い維持管理が不可欠です。設備への配慮や予算の確保というものを是非しっかりと対応してもらいたいです。

○西田氏

皆様、こんばんは。「よこはま市民メセナ協会」の西田と申します。私どもは、横浜の文化・芸術活動を支援するボランティア団体です。今日は、市民の立場から参加させていただきます。

私たち 370 万市民にとって、市庁舎は心臓部であり、シンボルです。その低層部が市民や商業の活用に関われて、観光客もやってくるということは、非常に活気的であり、新しい横浜の価値やスタイルを生み出すのではないかと、ワクワクしております。

これから低層部利用について市民の立場から、3点ほど申し上げたいと思います。

一つは、新市庁舎の低層部が、市民活動や商業、観光に関われた交流の場として活用されるという情報が、実は市民にはまだ十分に届いていないのが現実で、PR不足だと思います。整備予定地の北仲通りがどこかというのも、一般にイメージできるほどまだ浸透していないのが本当のところだと思います。

是非、市庁舎についての情報、特に低層部市民活用についても、もっとPRしていく必要があると思っております。

そこで一つ、提案です。今日のような機会を、こういった都心部だけではなくて北部や南部でもつくって、低層部をどんな場にしたいか、どのように使いたいかについて、主体者である市民をもっと巻き込んでいく必要があると思

ます。

二つ目ですが、公設による低層部の活用について、市民活動と商業や経済活動とが、これを機会に、新しい関わり方というものを一緒につくり上げていかなければならないと思います。市民と企業が対話し合っ、協働で新しい形のにぎわいのステージを創出していく。誰でもいつでも気軽に訪れたいくなる、開かれた交流の場として、都市・横浜らしさの価値をみんなと一緒に作り上げていくことが大切だと思います。

三つ目は、今後、開かれた低層部を誰がどう管理運営するのか。民間委託などの可能性も含めて、公の「市民活動や商業と一緒につくる開かれた場」の運営には、俯瞰の視点と、柔軟な発想を持った総合的なプロデュースの観点、仕掛けや仕組みが重要になってくると思います。

以上、低層部活用についてもっとPRが必要ということと、我々も、PRしていかなければなりません。市民活動と商業の新しい関係性の構築、そして総合的プロデュースの観点が重要であるということをつ、提案しました。

○国吉氏

前半のショートメッセージで、各団体から、この低層部の使い方について、非常に示唆に富んだ色んな意見が出ました。そういうことも踏まえ、この地区

で具体的にどんなことをしていくべきかといったとき、私の立場として、まちづくり、空間としてのこのつくり方とかにシフトしてみたいと思います。

当然そのような中で、どのように運営していくのが最終的に課題になるなと思います。三つの視点から説明します。

こちらは前半の説明であったようなこの場所です。北中地区は、この場所と市庁舎の南街区です。この前面には、水際線がずっと広がっています。現在この地区の計画は一部進んでおりますが、隣接して整備されていきます。

これが北中北地区で今、検討されているイメージです。レンガ素材をモチーフとした低層部がつながっています。ここには高層棟が4棟ほど建つ計画があります。ちなみに、北側から見ると、新市庁舎はこのぐらいのものかなという構想が分かります。こうやってこの角度から見るとラッカになりますが、この角度から見ると、玄関にもなり得るという感じかなと思います。

ここで私は、みなとみらいや野毛や関内など、活動の結節点、それから人の流れの結節点でもあるということ、歴史と水辺空間をキーワードにしていくべきではないかなと感じています。

これが図式にしたものですが、この結節点です。そして、ここだけで活動を考えるのではなくて、現在の市庁舎・街区もセットで、この地域をどうやって役割分担していくのが大事だと思います。

北中北の街区では、現在、検討中でまだ決まっておりませんが、こういった街区の計画案があります。ここの真ん中にも軸線が通っています。創造都市センターのある隣のアイランドタワーの街区、そして市庁舎街区、この二つの真正面にこの街区があるわけです。歩行動線では、ここをこういったつなぎにして、地下を通してこちらにつながっていくといった動線があります。ここに生糸検査所があります。

ちなみに、この北中北街区の低層部については、歴史性を維持しながら、ここに大きな広場空間ができています。ここに地下を通じて上がってくるような関係が出てきます。

この前面にアイランドタワーがあって、更にこちら側に市庁舎の予定地があります。

こういう中で、人の流れはどうなるかという、桜木町のワシントンホテルの前の歩道橋から、2階と3階の間ぐらいのレベルで、歩行者の軸がこちらに来るという計画が進んでおります。これをどういう形でつくるかは、今、検討中で、提案を求めているところです。これがここに入ってくるということと、グランドレベルでの歩行者の流れがあります。ここは、上から見下ろすようなアトリウム空間にもなってくる可能性があります。これはどういうつくり方をするかによって、それが変わってくるのではないかと思います。

このアトリウム空間はこういった空間です。これに対して、上からデッキの歩行者が来るので、朝夕、通勤の人がここを通過して、北側の街区に流れるというか、多くの人の流れの場にもなるかと思えます。

例えば、東口からデッキが日産の本社の中に入っています。中を通過して、下に車の展示してあるのが見えるわけです。アトリウム空間をこういうふうに見下ろす場もちょっとできるかもしれないという、立体間のある空間になる可能性を持っていると思えます。

ここに下りてきます。実際はこちらのアイランドタワーから地下を通過して、北中のほうにつながっていくことになると思えます。

また、水辺空間についてです。これまでも少しずつ市民に水辺を開放してきました。いよいよ、やはり川も含めて水辺を大事にしていくことに着手できるのかなと。今日、積極的に使っていて、実験的に始めている二つのチームからメッセージをもらいました。そういった人たちの活動も含めて、ここの軸が非常に重要になってきます。もちろん、こういった歴史的な資産もたくさんこの地域には散りばめられているわけです。

これまでこういうふうには水際線の緑の軸線というようなことをやってきました。川の軸線というものも入ってくる時期に来ているかと思えます。

これは現在の大岡川沿いです。この脇が市庁舎街区になるわけです。対岸は

こういうふうなみなとみらい地区があります。この写真では、ここが市庁舎街区になるわけですが、ここにウッドデッキの階段上の広場空間が広がっています。これをどう連携して積極的に使っていくのが課題になると思います。近くにはこういった歴史を生かした自動車道もあるということです。

この水辺空間の活用や、この店舗のつくり方によって、この空間特性は非常に良くなり、どれだけ活発になってくるかと。ですから、この店舗のつくり方を完全に閉じてしまうのか、ところどころ交流するような空間をつくるのかによっても相当違うかなと。

そしてまた、全体として、非常にフレキシブルな対応ができるようにすることで、多様性ができる空間をどうやってつくってくるかですね。柔軟に改変できる部分ができるかできないかというのも、可能性としてあるのかもしれないと思いました。

ちょっと参考に、「シンガポール」というのを持ってきました。シンガポールは、マリーナ湾に面して、今まではオーチャードロードが繁華街でした。現在はこちらに新たな魅力拠点ができつつあって、この超高層の上に3棟のホテルが並ぶプロジェクトが進んでいます。ここに「シンガポールリバー」というのがあります。

で、こういう 200 メートルのホテルがあって、この上の広場から見るとこ

ういうふうな感じですか。どちらかというと、こちらが歴史街区、こちらが新しい街区、この間にシンガポールリバーが流れています。こういう新しい集客施設もたくさんあるわけです。

このシンガポールリバー沿いには、新しいにぎわいができているわけです。歴史的な建造物もちゃんと保存しており、ここがまた新たなにぎわいをつくっています。

これは昔の郵便局がホテルになっているわけです。これは地下鉄の駅の出入り口です。こういった大きな広場に出てきて、ここからポツと川沿いに出てくると、これがこういったにぎわいの空間が広がります。これは 30 年前はとても汚い川で、とてもではないけれど、こんな親しめるような川ではなかったのです。横浜が参考にしたいぐらい、あっという間に追い越されてしまったと思うぐらい、シンガポールは徹底的にシンガポールリバーの改修を行いました。ここを魅力拠点として、若い人たちがたくさん集まる場になっています。

そして、こういった水上バスや水陸両用バスも使われています。

ただし、シンガポールの場合は、そんなに民間や市民活動が一緒になってというところまでいってないのではないかと思います。きちんと管理されているということはあると思いますが、その辺がやはり、横浜流のつくり方として違ってきます。

ただ、横浜の内港地区で色んなプロジェクトが進んでおりますが、やはりここだけで考えるのではなく、横浜港全体の相互的な考えの中でつくっていったほうが良いと考えております。

○片岡氏

シンガポールの事例の話と、あとけっこう皆さん、水辺との関係の話も色々、前半のショートプレゼンであったかと思えます。例えば、大西さんから、100年を見据えた構想みたいな話がありました。あと継続的なバリューアップみたいな話があったかと思えます。横浜ならではのそういう100年を見据えた構想や、継続的なバリューアップにどうやって柔軟に対応していくのかを、もう少し大西さんに聞きたいと思えます。

○大西氏

確かに、こういう抽象的な多様性や柔軟性と言うのは簡単ですが、それをどうするのかということは非常に問題だと思えます。

ただ、これも抽象的な表現かもしれませんが、予定ですとこれが2020年完成でしょうか。

2020年に、私は完璧な形のものをつくり上げる必要はないのではないかと

思います。時代の変化は非常に短期間になっているので、それに合わせやすいような思想を貫いたらどうかと思います。ですから、100年と言うのはオーバーかもしれませんが、100年かけて完成形に近づけると。

今までのこういうプロジェクトというのは、建物や外構が立ち上がると、一応、一段落で終わりというものが多かったと思います。私はその一つのヒントとして、出来上がったときが完成形ではなく、そこからスタートするような進行形が始まるのだというような考え方。

では、もっと具体的にどうかというのは、皆さんの知恵が色々あると思いますが、そういう提案をしたいと思います。

○片岡氏

西田さんに聞きます。つくり込まれない空間、若しくはつくり込まれない市庁舎ができることで、逆に市民の活動の余白が生まれるというふうにもとらえられるのかなと思います。市民の目から見たときは、そういうのはどういったように思いますか。

○西田氏

やはり市民の日常生活も社会動向も、日々伸展していくと思います。日々成

長していく市民やまち、社会変化とともに、創発を続ける「運動体」のような市庁舎だといいいのではないかなと思います。

ことに低層部は、市民の皆さんや旅人が訪れ、お店もたくさん出るということで、にぎわいが出ます。成長を続け、運動体として、可変性を持って市庁舎がつくられていくといいなと思っています。社会変化に対応可能な柔軟な仕組みや空間の在り方が、そういう意味で求められるのではないかと思います。

具体的に、仕組みや仕掛けの取り決めがまとまってしまうと、やはりなかなかそこから変化をすることが難しいです。今の段階から社会変化に対応する可変性をもった在り方をしっかり意識しておくことが求められると思います。

今回、デザインビルド方式ということで、応募の施工業者、建築関係の方々も、もしかしてこの会場に参加されているかもしれません。是非そういう可変性、柔軟性を持った市民の意見というものを反映して、考えていただきたいと思っています。

○片岡氏

今、「創発」みたいなキーワードがありました。前半のショートプレゼンでも、「イノベーション部」とか、そういったキーワードでプレゼンテーションしているチームもありました。創発に限らず、どんな感想を持たれたかとか、幾つ

か言ってください。

○西田氏

一点は、先ほどの水辺荘の話も、市民セクター、あっちこっち、横浜クラブさんも共通して、ネットワークづくりによる地域活性化ということが各活動紹介から見えたと思います。特にマネジメントの観点から、市民の皆さんによるプロデュースカやコーディネートカが、実はまちづくりを動かす推進力になっているのではないかと。これを動かすには、その背景にたくさんのメンバーがいらしたり、地域を巻き込んでやっておられると思います。そこから生まれてくる活動体というのは、やはり今、創発が日々行われていると思います。

そうすると、先ほどの「成長する運動体になってほしい」新市庁舎の在り方というのには、例えば協働という考え方があります。10年前は、まず皆さんと「協働とは何か」から言わなければならなかったけれども、今は市民も行政も企業も学校も、「みんなで協働して私たちのまちをつくろう」というのは当たり前になりつつあります。こんなふうには、創発と協働により成長していくまちづくりのイメージが感じられました。

二つとして、今度の市庁舎の低層部活用では水辺荘や野毛のまちづくりに見るように、横浜の地域資源を活かし、市庁舎界隈の賑わい創出はもちろんです

が、周りのまちとも行き交う双方性を持ってやっていける、広く社会に開いていく印象がします。そういう意味での創発の可能性、ワクワク感が非常に期待されるのではないかと。

先ほどの参加者の皆さんによるアイデアサマリーに、あそこに「焚き火をしたい場をつくる」とか、「マルシェが欲しい」とか、多彩なご意見が出され、創発ってこうやって皆さん、色んなことを思ってアイデアを集めて、そこから高次へと収斂していくのではないかと思います。

○片岡氏

大西さんはどうでしょうか。どちらかという今日プレゼンは、市民活動的なものが多くあったかと思いますが。それで、商業施設もあるのですよね。経済界と今日のショートプレゼンとの関係も含めて、感想をお願いします。

○大西氏

先ほどの各団体の発表を聴いていて、私も非常に大切なことだと思いました。発表された順で話します。

ハマブリッジさんですか、「まちの活性化のために、24時間にぎわいがある」というようなキーワードを言われました。やはりこれだけグローバル化が進ん

でいるので、24 時間ということも非常に重要なキーワードだなということです。

それから、一般的には高齢化が進んでいる中で、やはり色々な催し物にしても、世代であるとか、ハンディキャップの問題とかを踏まえた企画運営というようなことも私は非常に共鳴しました。

にぎわいがないと、まちは衰退します。もう少し根本的なことを考えると、やはり人口が減ってしまうということは、非常にまちとしての力をそぐわけです。出生から子供、若者、中年、高齢者のバランスが取れるような市民行政、最終的にはやはり人口が減らないようなまちづくりが、まちの発展に非常に大きなことです。それが仕事の面でも非常に影響してくるし、市民にとっても非常に有意義なことではないかと考えております。

○片岡氏

確かに、横浜の水辺空間として、恐らくあそこは横浜の中でも一等地だと思います。そこに行政が莫大な投資をします。単なる行政施設をつくる以上の価値をそこからいかに生み出せるかが、一つ重要な項目としてあるのかなと思っています。

あと、空間的な視点も踏まえつつ、今日出てこられなかったみなとみらいの企業とか、そういった関係も含めながら、今後色々考えていく必要もあるのか

なと思っております。国吉さんは、今日のプレゼンはどうですか。

○国吉氏

経済活動の側面と、市民活動のほかに、やはり具体的にその地域にあるものをきちんとやっていくといえますか。

北中北地区で今進んでいるプロジェクトの中では、やはり創造的な活動の場をつくろうというようなことも前々から課題になっております。この中でも創造的な活動をする場をつくろうということが約束事となっております。

また、創造都市センターが隣の街区にあるわけです。そういったものとも含めた全体としての創造的な活動というのがどういうふうにできてくるのかというようなことを、それぞれで何を特色を持ってやるか。全部同じようにやらないで、少しずつ尖ってやっていくほうがいいのかと思います。それは市民活動においても、万遍なくバランスよくやると、結局なかなか特徴が出ないと思います。それを何らかのマネジメントチームが「5年間はこれでいこう」とか、そういうような選択をして、少し尖って進めていくシステムができないかという感じがしています。

やはり地域で既に事業としてあるものをちゃんと連携していくことと、ここでの経済活動は結局、市庁舎街区で何をやるかともリンクしてくるわけです。

特に経済活動の活性化については、市庁舎街区ともリンクしながら、向こうとこちらでどういうふうに役割を持つかみたいなことを議論していくことになるかなと思います。

○片岡氏

尖ってやっていくシステムやプロデュースカ、役割というのは、少し重要な気がします。ここで意見ボードのほうでどんなものがあったかという発表をします。それでは、順番にお願いします。

○新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること

(オープンスペースなど屋根付き広場)

こちらは最初からカテゴリ分けされています。非日常か日常かという軸と、市民利用から商業利用の分けがあった上で貼り付けてもらった感じでした。この分けごとに、どういった傾向があるのかを話します。

市民×非日常。ここが一番、具体例が多く出た区域になります。ローカルな視点のものから、世界のイベントを呼んでくるような意見まで、幅広くありました。大道芸や、各町内会のおみこしを集結させる。ノーベル賞、アカデミー賞のような世界的受賞者や、世界のイベントを横浜に呼んでくる。パブリック

ビューイング、点茶会、カジノ等。

商業利用×非日常。カッコよい横浜を出していったらよいのではないかという意見がありました。撮影場所やコマーシャルに使ったらよいのではないか。

アート、商い、自由な活動が行われる。

商業×日常。商業というよりは、まちの拠点づくりのようなイメージをした人が多かったように思います。市庁舎からまち全体につながるとよい。創造都市センターの利用。文化の拠点。

日常×市民。具体例というよりも、誰でも使える気軽さや使いやすさが重視されていたり、人に自慢したくなるシビックプライドの発信地というような利用をしたりしていきたい。

農業関係の利用。マルシェをしたい、市民農園をつくる、という意見が多く、横浜の農業に対する興味の深さが分かりました。

施設的な意見では、建材を使ったベンチ。横浜のものを使った材料で施設をつくってほしい。広場ということで、樹木の在り方やハードの話ですが、アトリウムに樹木は置かない。ある場合は、鳥が来て楽しむようなもの。

○新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること

(水辺・広場)

水辺や広場でやりたいこと、できること、本当にたくさんの意見や考えが集まっています。大きく分けると、「こういった空間に整備してほしい」とか、「こういう施設をつくってほしい」といったハード部分や、そういった場所でどういったことがしたいか、自分たちだったらどういうふうに水辺や広場を使うかといったソフトの部分と、それらに対する思いや考え等々がありました。順番に説明します。

ハードの部分。水辺から屋根付き広場まで、水による動線をつくって、水の連続性を持たせてほしい。低層部平面のプランから、水辺への連続的なプランを展開。ただの水辺だけの整備ではなく、今回メインとなる市庁舎の水辺との連続性をつくってほしい。多くの樹木を植えてほしい。外向広場は芝生にしてほしい。常時使えるような栈橋を設置してほしい。船着き場や人口海浜(?)の部分をつくってほしい。水、電気、ごみ処理といった設備もつくってほしい。

こういったハードに対する皆さんの提案に合わせて、やはり使い方として多かったのが、「水上交通や水上アクティビティを是非やりたい」という意見がまず多かったです。サップやカヤックといった水上アクティビティや、ランニングやパドリング、サイクリングのステーションなど、移動ツールを担保するような施設もつくってほしいという意見もありました。

それ以外に、「こんなふうに水辺を使いたい」という様々な考えが出てきてい

ます。コーヒーや酒を楽しめるテラスとして使いたい。水辺でのバーベキュー。

都市農園をつくってほしい。夜に光や音、水を使ったアートの場所として使えるのではないか。大道芸の場。焚き火ができる場所をつくってほしい。

また、今後の管理の部分としても、定期的に清掃を行える環境を整えたい。

栈橋にナンバー式の鍵を取り付ける。栈橋に鍵はいらない。管理人を付けてほしい。

カテゴリとしては分けられなかったのですが、大阪とは違う、横浜ならではの水辺利用を考えてほしい、もう社会実験はいらない、水辺や広場を使う実質的なプレーヤーを増やす仕組みを考えてほしい、といった意見、その仕組みに関しては、市民や県民がふれあえるようにしたい、水上イベントは県と市を挙げてバックアップする空気をまずつくってほしい、神奈川県と横浜市がタックを組んで盛り上げてほしい、という意見もありました。

○新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること

(商業)

商業は、貼っているシートの数が大分少ないです。行政のサービスと商業が融合したような空間が欲しい。プロムナード(?)と直接つながった商業の配置が欲しい。周辺の中小ビル低層部と連動を持たせるような、適度な棲み分け

ができた商業空間が欲しい。土日にも活力ある建物になるように、人の流れをつくっていきたい。

それから、特にインキュベーションチャレンジといったような項目が何個か出ています。東京のチェーン店でなくて、チャレンジしたい企業に期間を決めて入居させたらどうか。横浜の今とこれからを紹介するスペースにしたらどうか。横浜国大に歩道ワゴンがあるが、このようなインキュベーションのショップがあったらどうか。個人事業者がスタートする時点のチャレンジの場であつたらどうか。横浜野菜を使った料理が食べられるようなところ。横浜の老舗や、上の世代の人たちがつくり上げてきた商業文化を紹介するような施設が欲しい。裏路地（？）に展開されるような飲食店など。ほかの都市や友好交流都市のアンテナショップや観光PRブース。

○新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること

(市民協働スペースなど横浜らしさ、交流)

新たなものにチャレンジできる場。どの都市でもしていないような新たな挑戦をするような活用法。市民の考える力を育てるような教育の場。都心部だけではなく、横浜の郊外部の魅力を発信するような工夫もしてほしい。官民の距離を近くするために、多様なアイデアを受け止める場になってほしい。

学び・経験。教育、娯楽、美などを経験できる場。海について学べる場になってほしい。NPOと市民、ボランティアで交流できる場としてあってほしい。

運営について。行政よりもまちづくり団体、クリエイター、イベント団体、デザイナーなどに任せたいほうがいいのではないか。

機能の話。図書館や情報公開室が一緒になったライブラリーとしての機能。会議室、ホールとしての機能。観光案内総合センターとしての機能。外国人へのサポートデスク。フレキシブルな空間づくり。庭園をつくって、いこいの場としたらどうか。屋外で飲食できるカフェがあったらいい。二つの運河と港湾地区を回る定期船の航路にしてほしい。市外の人への情報発信スペースとしての機能を持たせてほしい。横浜で生まれた技術職人の紹介と今後の育成の場としてほしい。DIYカフェ、市民の物づくりの拠点となってほしい。

あとは、特に多かったのが、お母さんと子供のためにどういう場であってほしいかという話です。ママだって議論に参加したい。まちづくりや勉強会にも出席したい。気軽に出かけられる場所が欲しい。キッズエリアの設定や、夜間でも託児できる部屋を設けてほしい。子供が遊べるスペースや、保育スペースが欲しい。横浜市の植物や動物を常設して、子供たちに説明できるようなスペースが欲しい。横浜スタジアムや近隣のイベントのときにも使えるような託児スペース。夜も使えるような託児スペースが欲しい。

○新しい横浜市庁舎でやりたいこと・できること

(その他)

「その他」ということですが、けっこうまとまったキーワードになっておりました。ビジョンや横浜市全体のインフォメーションを設置してほしい。市民みんなにかわいがってもらえるような動物を飼ってみたい。保育所。子供から高齢者の姿が見える、生活感あるつくりを、ゆったりとしたイメージでつくってほしい。

建築。空間として余白のある、可変性を重視したフロア、変化できるつくり方にしてほしい。防災をしっかりしてほしい。水害への対応機能など。

けっこう多かった意見で、マネジメントがあります。ゆっくりと完成する場でよいかもしれない。市民が参加するプロセスが大事。民間に任せたいほうがよい。行政主導でなければ、いいプランが出てくると思う。市民の柔軟な発想力のあるスタッフに、運営に関わってほしい。バリアなくコーディネートする人材も絶対必要。人材育成もしてほしい。

○片岡氏

水辺はすごくたくさんありました。前半で水辺の提案があったからかもしれ

ないですが、かなりあの場所の可能性として、水辺というのは着目しているのではないかというのはちょっと見えてきている感じがします。

あとは全体的に、マネジメントに対する関心の高さは大きい項目としてあるのかなと思います。

私自身としては、商業が少なかったというのが気になっています。先ほど西田さんから、市民と経済との新しい関係を考えていかなければいけないのではないかという話がありました。実際にマネジメントしていくときに、その商業の人たちがどう関わるのかというのもけっこう重要になってくるのではないかと思います。

国吉さんからも、「少し尖ったものを集めるプロデュースカ」という話がありました。その辺について、誰か意見があれば聞きたいと思います。西田さん、何か。

○西田氏

先ほどプレゼンテーションされた市民セクターの例に、マネジメントのヒントがあったと思います。ネットワークづくりで人と人、団体、地域が相互につながって、市民セクターさんは実績を重ねてきました。市民活動と商業との連携についても、NPOは社会貢献と経営の両立、企業もまた、経営と社会貢献

を両立していくという方向性で、これからは公において市民活動と商業・経済活動が共存協力、協働して、新しい価値を創造していくのではないかと思います。

民の中にも多様な民があって、新市庁舎ができることは、市民と企業が手を携えて新しい形をつくり出す、非常にいいチャンスではないかなと思っています。

○片岡氏

大西さんも多分、その辺の継続的なバリューアップみたいな部分とも兼合いがあるのではないかと思います。

○大西氏

例えば、最近デパートに入ってみると、日本語の案内が少なく、英語や中国語や韓国語が圧倒的に多いです。横浜においても、外国人に対する配慮や、横浜への誘致は非常に大切なことではないかと思います。先ほど野毛の人が言った「オンリーワン」というような感じで、商業においても是非、横浜に行かなければ買えないとか、食べられない、見られないといった店を集中的に入れるとか、そういうのもアイデアとしては面白いのではないかと思います。やは

りこれは目先の利益だけを追求したときに、民間ではこの商業部分においても、やはり採算が取れるか取れないかがどうしても出てきてしまうわけです。こういう行政のスペースでこのスペースというのは、ある意味市民サービスや、将来の横浜のためにという要素もかなりあろうかと思えます。外国人への配慮や、商業などについても、そういった目的のために、ある部分優遇して誘致するか、その辺のアイディアはどうかと思えます。

○片岡氏

最後に、元行政職員として、国吉さんに聞いてみたいと思えます。実はあちらのボードのタイトルには「やりたいこと、できること」と書いてあります。もちろん「こうなってほしい」ことを書いてもらっても全然構わないですが、皆さんが自分自身としてやってみたいことが少しでも出てくればいいかなと思って考えました。

一方で、ここは市役所の施設なわけです。そういったところで、まず一步踏み出してやっていくのを、どう仕込んでいくかについて、一言もらえたらと思えます。

○国吉氏

通常の市役所を管理するような場であってはいけないということは、誰でも一致した意見だと思えます。可能性があるなら、横浜市も民間に任せるスタンスをまず取るということです。横浜市も、これまで創造都市といった側面でお願ひして、民間に任せてきていることはたくさんあります。そういう経験も踏まえ、まずは横浜市がそういう立場に立つということです。

しかし、それをきちんとやっていけるような提案がどんどん出てこないと、ただ任せただけでも駄目でしょう。ですから、今日来てまだ発言もしていない人たちの中でも、「我々だったらこういうチームをつくって運営できる」というのが何らかの形で出てくるといいなと思えます。

先ほど野毛の福田さんの話で、色んな違った血が混じるということでした。今までは商業をやっていない人で、新しい文化に関わっている人が商業を営むとか、違う領域の人が関わる場も行政が用意して、挑戦する人を求めるとか、そういう機会づくりもしてはどうかと思えます。

また、その辺の具体的な話は、今日のシンポジウムではとてもできないです。みんなが参加して議論できる場が必要だと思えます。

○片岡氏

国吉さんは割と「今後に向けて」みたいなコメントもありました。では、今

後に向けて順番に話してもらえればと思います。

○西田氏

市民協働と、商業や経済活動の連携で新しい関わり方をつくるとき、ボードにも地域資源を生かした提案が非常に沢山ありました。横浜の都市ブランドを高める事業がいろいろあると思います。

横浜の名物と言われる、スカーフやシウマイもそうですが、商品以外にも横浜ブランドのイベントは、仮装行列や野毛の大道芸があります。演劇では横浜夢座が、横浜を掘り起こした演劇を 15 年以上、上演しています。三溪園も横浜人の貴重な文化資源です。そういった集客やにぎわいをつくる、多彩な地域資源と市民や、商業や企業が結び付いて、アイデアある商品化ですとか。野毛で大道芸を見た人たちが市庁舎に流れてくるとか、仮装行列の帰りにここで御飯を食べるといようなシティセールスを可能にする使い方があります。少し具体的で現実的な話になりますが。マルシェの話もそうだし、色々使い方が出ていました。皆さんのアイデアの宝庫なのではないかと思います。まずは活用について、意見交換をする機会や場をこれからつくっていくのが、とても大事ではないかと思います。

○片岡氏

最後に大西さん、一言お願いします。

○大西氏

横浜の市民や企業の人たちは、ほかのまちに比べても地元愛が強いのではないかと感じております。

例えば、プロ野球のDNAにしても、成績は芳しくありません。では、ファンから離れていってしまうのかというと、そうではなく、逆に毎年少しずつファンが増えています。

今回の新市庁舎プロジェクトも、知らない市民がかなりいるという話なので、やはり是非その辺の広報を少しでも徹底して、市民参加で、より良い作品にできるようにお願いします。

脚本家の倉本壮さんが「お金を使って知識を基に、前例に従ってつくるものは、『作』だ。逆にお金をかけないで知恵を使って、前例のないものをつくっていくのは『創』だ」と書いていました。私自身も「なるほど」と参考になりました。

○片岡氏

是非、色々「創造」していきたいということですね。私個人としては、市庁舎は行政のものではなくて、究極を言ったら、横浜市民皆さんのものだと思います。50年とか100年という話がありますが、世の中、行政としての横浜もこの先どうなるか分からないのではないかと考えています。行政すら変わっていく中で、本当にここの場所や、都市の価値を高めていくためには、やはり皆さんが自分たちの場所、自分たちのこととして色んなことを考え、できることを持ち寄って、一つひとつ積み上げていく必要があるのではないかと考えております。そういうのが将来の不確実な世界の中でも、価値のある空間をつくり出していけるのではないかとと思います。

今日色々、そのタネはたくさん出てきたのではないかとと思います。

あと、実際のプロセスとして、横浜市の期限の終わりが決まっていたせいなのか分からないですが、今までは割とサクサクと、なるべく淡々と進めようとしていました。

やはり市民の皆さん一人ひとりが自分たちのこととして考えていく機会をいかにたくさんつくっていくかは、重要なことになるのではないかと感じました。

以上で終了したいと思います。ショートプレゼンの皆さんも、たくさんアイディアを書いてくれた皆さんも、本当に今日はどうもありがとうございました。